

令和 4 年度

スポーツ柔整科 シラバス

こころ医療福祉専門学校

(学校法人 岩永学園)

スポーツ柔整科JT20A

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単位 数	科目 時間	1 年次		2 年次		3 年次	
							前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	必修	スポーツ健康学Ⅰ（保健体育）	演習	4	60	30	30				
		必修	スポーツ健康学Ⅱ（生物学）	講義	4	60	30	30				
		必修	スポーツ健康学Ⅲ（栄養学）	講義	2	30	30					
		必修	スポーツ健康学Ⅳ（心理学）	講義	2	30	30					
		必修	スポーツ健康学Ⅴ（体力学）	講義	2	30		30				
専門基礎	人体の構造と機能	必修	解剖学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖生理学Ⅰ	講義	2	30	15	15				
		必修	解剖生理学Ⅱ	講義	2	30			15	15		
		必修	運動学	講義	2	60			30	30		
		必修	高齢者及び競技者の生理学的特徴	講義	1	15	15					
	疾病と傷害	必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	30					30	
		必修	病理学	講義	2	60			30	30		
		必修	外科学概論	講義	2	30				30		
		必修	整形外科学	講義	2	30			30			
		必修	リハビリテーション医学	講義	2	60			30	30		
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	30		30				
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	必修	関係法規	講義	1	30		30				
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	60	30	30				
		必修	職業倫理	講義	1	15	15					
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	30		30				
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	30			30			
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	30				30		
		必修	柔道Ⅳ	実技	1	30					30	
	社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	15	15					
専門	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ（総論）	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ（軟損）	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ（上肢骨折）	講義	2	60			30	30		
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ（下肢骨折）	講義	2	60			30	30		
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ（外傷保存療法の経過及び治癒の判定）	講義	2	30			15	15		
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ（脱臼）	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ（物理療法機器の取扱い）	講義	1	30			15	15		
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ（認定実技・国対）	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ（認定実技・国対）	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ（認定実技・国対）	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ（柔道整復術適応）	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ（認定実技・国対）	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ（認定実技・国対）	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅸ（認定実技・国対）	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅹ（認定実技・国対）	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅺ（認定実技・国対）	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅻ（認定実技・国対）	講義	1	30					15	15
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ（包帯）	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅱ（臨床実習施術試験等）	実技	1	30	15	15				
		必修	柔道整復実技Ⅲ（固定具・検査法）	実技	2	60	60					
		必修	柔道整復実技Ⅳ（高齢者の外傷予防）	実技	1	30	15	15				
		必修	柔道整復実技Ⅴ（認定実技）	実技	2	60			30	30		
		必修	柔道整復実技Ⅵ（競技者の外傷予防）	実技	1	30			15	15		
		必修	柔道整復実技Ⅶ（認定実技・国対）	実技	2	60					30	30
		必修	柔道整復実技Ⅷ（認定実技・国対）	実技	2	60					30	30
		必修	柔道整復実技Ⅸ（認定実技・国対）	実技	2	60					30	30
		必修	柔道整復実技Ⅹ（認定実技・国対）	実技	2	60					30	30
		必修	柔道整復実技Ⅺ（模試・卒試）	実技	3	95					30	65
		必修	柔道整復実技Ⅻ（認定実技・国対）	実技	1	30						30
	臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45				
		必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45			
		必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45		
		必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45					45	

合計 104 2750 450 450 465 465 480 440

スポーツ柔整科 JT21A JT22A

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単位 数	科目 時間	1 年次		2 年次		3 年次	
							前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の 基盤人間と生活	必修	生物学	講義	4	60	30	30				
		必修	栄養学	講義	2	30	15	15				
		必修	医療コミュニケーション	講義	4	60	30	30				
		必修	情報リテラシー	演習	2	30	30					
		必修	医用英語	講義	2	30	15	15				
専門基礎	人体の構造 と機能	必修	解剖学Ⅰ（運動器：骨格系、筋系）	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖学Ⅳ	講義	2	60			30	30		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖生理学Ⅰ	講義	2	30	15	15				
		必修	解剖生理学Ⅱ	講義	1	15			15			
		必修	運動学	講義	2	60			30	30		
		必修	高齢者の生理学的特徴・変化	講義	1	15			15			
		必修	競技者の生理学的特徴・変化	講義	1	15				15		
	疾病と傷害	必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	30					15	15
		必修	病理学	講義	2	60			30	30		
		必修	外科学概論	講義	2	30				30		
		必修	整形外科科学	講義	2	30				30		
		必修	リハビリテーション医学Ⅰ	講義	2	30			30			
	柔道整復術の適応	必修	リハビリテーション医学Ⅱ（高齢者の運動機能維持・回	講義	1	15			15			
		必修	柔道整復術の適応	講義	2	30					15	15
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	必修	関係法規	講義	2	30					30	
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	60					30	30
		必修	職業倫理	講義	1	15					15	
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	30		30				
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	30			30			
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	30				30		
	社会保障制度	必修	柔道Ⅳ	実技	1	30					30	
		必修	社会保障制度	講義	1	15				15		
専門	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講義	2	30	15	15				
		必修	基礎柔道整復学Ⅵ（外傷保存療法の経過及び治癒の判定）	講義	2	60					30	30
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ	講義	1	30			15	15		
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ（物理療法機器の取扱い）	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ（柔道整復術の臨床的判定・医用画像	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅸ（機能訓練指導）	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅹ	講義	1	30						30
		必修	臨床柔道整復学Ⅺ	講義	1	30						30
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅱ（臨床実習前施術試験等）	実技	1	30	15	15				
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅳ（高齢者の外傷予防）	実技	1	30						30
		必修	柔道整復実技Ⅴ	実技	2	60			30	30		
		必修	柔道整復実技Ⅵ（競技者の外傷予防）	実技	1	30			15	15		
		必修	柔道整復実技Ⅶ	実技	1	45			30	15		
		必修	柔道整復実技Ⅷ（機能訓練指導実技）	実技	1	30					30	
		必修	柔道整復実技Ⅸ（スポーツコンディショニング実技）	実技	2	60					30	30
		必修	柔道整復実技Ⅹ	実技	2	60					30	30
		必修	柔道整復実技Ⅺ	実技	2	60					30	30
	臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45				
		必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45			
		必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45		
		必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45					45	

合計 107 2775 435 480 465 495 480 420

スポーツ柔整科進級判定基準(科内規程)

当該年度実施される授業の内、未修得科目が3科目以上あった場合は留年とする。

<各科目の単位認定>

- (1)講義および演習については2／3以上、実技については4／5以上の出席をしていること。
- (2)総合評価において、60点以上の評価を受け合格していること。
- (3)再試験において、70点以上の評価を受け合格していること。
- (4)追試験において、60点以上の評価を受け合格していること。

<追再試験等>

定期試験においては不合格だった者は再試験、また、止むを得ない事情により定期試験を欠席した者については追試験を受けることができる。

<臨床実習の単位認定>

単位未修得の場合は進級できない。

- (1)実習中止の際の追加実習の可否については、その実習内容を踏まえ、学科内で協議する。追加実習を実施しない場合については、単位未修得となる。
- (2)最終評価は、臨床実習先の評価を踏まえ、学科内で実施する。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 一般臨床医学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

診察の意義と実際、生命徴候の測定、生理機能検査、検体検査、主に内科的疾患の定義や病態(原因、症状)、検査法、治療、予後を解説し、一般臨床医学の理解を促す。

2 到達目標

柔道整復師にとって必要な診察や検査法、主要な疾患について理解できることを目標とする。

3 授業の方法

プリントを配布し、教科書に沿って解説し、適宜追加資料を配布し理解を促す。

4 成績評価方法・基準

定期試験 90%、授業態度 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、出席頻度や受講態度を総合的に評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って事前に教科書を予習・復習することで、理解が深まる。疑問に思ったところは積極的に教員に質問すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「一般臨床医学」（改訂第3版） 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

医療者として、専門分野だけでなく合併している種々の疾患について理解することは、患者さんへの全人的なアプローチに繋がります。是非興味を持って取り組んでください。

9 教員氏名（ 川上 恭 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（一般臨床医学Ⅱ）

回数	授業内容
1	診察概論、診察各論（医療面接）
2	診察各論 視診・打診・聴診・触診・生命徴候
3	診察各論 感覚検査・反射検査
4	検査法 生命徴候の測定・生理機能検査・検体検査・各検査の基準値
5	疾患各論 呼吸器疾患
6	疾患各論 循環器疾患
7	疾患各論 消化器疾患
8	疾患各論 代謝・栄養疾患
9	疾患各論 内分泌疾患
10	疾患各論 血液疾患
11	疾患各論 腎・尿路疾患
12	疾患各論 神経疾患
13	疾患各論 感染症
14	疾患各論 リウマチ・膠原病・アレルギー・環境要因による疾患
15	定期試験
16	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名(柔道 IV)

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1. 授業の内容

認定実技試験合格に向けての実技能力の向上。

2. 到達目標

柔道実技審査合格

3. 授業の方法

講堂に畳を敷き、柔道の礼儀、基本受け身、基本型を稽古する。

4. 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

5. 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる（認定実技要綱より）

6. 授業時間外学習

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。
特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

7. 使用教材，教具

柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）など
講義はテキスト不要、資料を適宜配布する。

8. 学生へのメッセージ

認定実技試験合格を目指し、積極的に授業に取り組み、怪我をしない、させないように集中して授業を受けて下さい。

9. 教員名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）
実務経験の詳細（施術所にて施術者として勤務経験あり）

10. 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(柔道Ⅳ)

回数	授業内容
1	身体慣し、受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習
2	受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形（手技）
3	受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形（手技）
4	受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形（腰技）
5	受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形（腰技）
6	受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形（足技）
7	受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形（足技）
8	礼法復習、受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習
9	礼法復習、受身復習、打込み、投技練習、形の練習
10	礼法復習、受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形の練習
11	礼法復習、受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形の練習
12	通し稽古（礼法～受身～形）
13	通し稽古（形～約束乱取）
14	通し稽古（礼法～受身～形～約束乱取）
15	実技試験
16	試験結果発表 総復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

頭部，体幹，上肢の骨折及び脱臼の各論を復習し，特に臨床的に重要な発生機序，診察法，整復法，固定法の理解を深める。

2 到達目標

各損傷の特徴を理解し，各外傷の基本理論を学習し，損傷を明確に評価できる根拠を症状から読み取れる応用力を身に着けることを目標とする。

3 授業の方法

復習を行いながら，より理解力を深めるように，演習問題を解いていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には，出席状況，積極性を加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間外の自学習を徹底してください。分からないところはそのままにしないで，必ず教員に質問して，理解できるようにしてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

1年次，2年次に学習してきた内容の理解度を，自己分析しながら理解の足りない箇所をより深く学習することで，全体学習へつなげていくように努力してください。
最大の目標である国家試験合格に向けて，より一層の学習時間を確保するようにしてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	頭部，顔面部の骨折① 頭蓋骨骨折，顔面頭蓋骨折 P152～P162
2	頭部，顔面部の骨折② 頭蓋骨骨折，顔面頭蓋骨折 P152～P162
3	顎関節脱臼 P163～P166
4	頸椎の骨折， 頸椎脱臼 P171～P182
5	胸椎の骨折， 胸椎の脱臼 P200～P206
6	腰椎の骨折，腰椎の脱臼 P212～P216
7	鎖骨骨折（定型的骨折，整復法，固定法を除く） P220～
8	鎖骨の脱臼（肩鎖関節上方脱臼，整復法，固定法を除く） P225～
9	肩甲骨骨折 P228～P233
10	上腕骨近位端部骨折 （外科頸外転型骨折整復法を除く） P233～P238
11	肩関節脱臼 （烏口下脱臼整復法，固定法を除く） P239～P244
12	上腕骨骨幹部骨折 P256～P262
13	上腕骨遠位端部骨折① P263～P273
14	上腕骨遠位端部骨折② P263～P273
15	中間試験
16	試験解説
17	前腕近位端部骨折 P274～P278
18	肘関節脱臼 （肘関節後方脱臼整復法，固定法／肘内障を除く） P279～P283
19	前腕骨骨幹部骨折① P288～P299
20	前腕骨骨幹部骨折② P288～P299
21	前腕骨遠位端部骨折① （コーレス骨折整復法，固定法を除く） P304～P313
22	前腕骨遠位端部骨折② （コーレス骨折整復法，固定法を除く） P304～P313
23	手根骨骨折① P313～P318
24	手根骨骨折② P313～P318
25	手関節脱臼 P318～P321
26	中手骨骨折，手根中手関節脱臼① P328～P332
27	中手骨骨折，手根中手関節脱臼② P328～P332
28	指骨骨折 P334～P338
29	中手指節関節，指関節脱臼① P339～P343
30	中手指節関節，指関節脱臼② P339～P343
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）（45分）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師が携わる機能訓練指導について、その内容を理解し、実践につながる基礎を学ぶ。

2 到達目標

高齢者の身体的、心理的特徴を理解し、特有の疾病を知ることが目標とする。
併せて介護について学ぶことで、機能訓練指導を具体的にイメージでき、機能訓練指導員として、柔道整復師が介護の分野における位置づけを理解する。

3 授業の方法

教科書、配布資料を基に、プロジェクターを用いて行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間が45分と短いので、予め教科書を読んでおくこと。復習は、その日のうちに学習した内容をもう一度見直し、不明な点を不明なままにしないようにする。

7 使用教材，教具

柔道整復師と機能訓練指導 — 機能訓練指導員養成テキスト

8 学生へのメッセージ

柔道整復師が介護の分野で業務に携わるためには、高齢者の特徴や介護保険についての知識を身につけることが重要です。また、地域医療連携を実現させるためにも、きちんと学習してください。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所で施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	柔道整復師と介護保険 P1～P3
2	発達と老化の理解 P5～P7
3	発達と老化の理解 ― 学習 P7～P10
4	老年期の発達と成熟 P10～P11
5	老化に伴う心と身体の変化と日常生活 P11～P13
6	エイジング理論 P13～P16
7	高齢者と健康① P16～P24
8	高齢者と健康② P16～P24
9	高齢者と健康③ P16～P24
10	認知症の理解① ― 認知症の定義、認知症を取り巻く状況 P25～P31
11	認知症の理解② ― 認知症の定義、認知症を取り巻く状況 P25～P31
12	医学的側面からみた認知症の基礎① P31～P37
13	医学的側面からみた認知症の基礎② P31～P37
14	認知症に伴う心と体の変化と日常生活 P37～P45
15	定期試験
16	答案返却および試験解説
17	介護保険制度 P47～49
18	要介護度 P49～P53
19	介護保険の給付～① P54～P66
20	介護保険の給付～② P54～P66
21	介護の過程 P67～P72
22	高齢者介護とICF① P73～83
23	高齢者介護とICF② P73～83
24	介護予防と生活機能の向上 P85～88
25	介護予防・日常生活支援総合事業 P89～P94
26	ロコモティブシンドローム P95～P102
27	高齢者自立支援の理解 P103～P122
28	機能訓練指導員と機能訓練① P123～
29	機能訓練指導員と機能訓練② P123～
30	機能訓練指導員と機能訓練③ P123～
31	定期試験
32	答案返却および試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

頭部、顔面部、頸部、上肢及び下肢の各損傷を理解・習得する。

2 到達目標

柔道整復師が通常業務で対応する軟部組織損傷の病態を理解し、施術法に繋がるようにそれらの知識を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

板書を基本に、教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。また、区切りとしてコンテンツ毎に小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度の評価には出席状況も加味します。また、授業に対して積極的な姿勢も評価に加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしていくこと。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

参考資料プリント

8 学生へのメッセージ

軟部組織損傷を理解する為には解剖学や生理学の基礎医学の知識も必要になります。将来的にスポーツ分野あるいは介護分野へ就職を希望する人は、特に重要な項目となるので、しっかりとその知識を身につけるように努力してください。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所で柔道整復師としての実務経験有り ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	頭部・顔面部の軟部組織損傷
2	頸部の軟部組織損傷
3	胸背部、腰部の軟部組織損傷
4	上肢帯の軟部組織損傷（１）
5	上肢帯の軟部組織損傷（２）
6	上肢帯の軟部組織損傷（３）
7	上肢帯の軟部組織損傷（４）
8	上肢帯の軟部組織損傷（５）
9	上肢帯の軟部組織損傷（６）
10	上肢帯の軟部組織損傷（７）
11	上肢帯の軟部組織損傷（８）
12	上肢帯の軟部組織損傷（９）
13	上肢帯の軟部組織損傷（10）
14	上肢帯の軟部組織損傷（12）
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	下肢帯の軟部組織損傷（１）
18	下肢帯の軟部組織損傷（２）
19	下肢帯の軟部組織損傷（３）
20	下肢帯の軟部組織損傷（４）
21	下肢帯の軟部組織損傷（５）
22	下肢帯の軟部組織損傷（６）
23	下肢帯の軟部組織損傷（７）
24	下肢帯の軟部組織損傷（８）
25	下肢帯の軟部組織損傷（９）
26	下肢帯の軟部組織損傷（10）
27	下肢帯の軟部組織損傷（11）
28	下肢帯の軟部組織損傷（12）
29	下肢帯の軟部組織損傷（13）
30	下肢帯の軟部組織損傷（14）
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

柔道整復師に必要な施術の適応判断の知識と、医用画像の離開を深め、担当教員の実務経験を基にした、患者への接し方、所見の取り方、画像の運用方法、治療の説明を行い、実践的な知識力を身に付ける。

2 到達目標

柔道整復師として施術の適応、医用画像の理解ができるようになる。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会監修「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として働くために必要な知識になりますので、理解を深めてください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ ）

回数	授業内容
1	柔道整復術の適否
2	損傷に類似する症状を示す疾患 1
3	損傷に類似する症状を示す疾患 2
4	血流障害を伴う損傷
5	末梢神経損傷を伴う損傷
6	脱臼骨折
7	外出血を伴う損傷 1
8	外出血を伴う損傷 2
9	外出血を伴う損傷 3
10	病的骨折および脱臼
11	意識障害を伴う損傷
12	脊髄症状のある損傷 1
13	脊髄症状のある損傷 2
14	前期まとめ
15	定期試験
16	試験解説
17	呼吸運動障害を伴う損傷
18	内臓損傷の合併が疑われる損傷
19	高エネルギー外傷
20	医用画像とは、放射線の概要
21	主要な部位の一般撮影法
22	画像のデジタル化
23	CT の概要
24	CT 撮影の実際
25	MRI の概要
26	MR 検査の手順
27	超音波画像装置の概要
28	運動器系の画像
29	臨床画像の実際
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

2 学年までに学習した軟部組織の各損傷を復習し、その詳細を徹底して理解する。

2 到達目標

軟部組織損傷は柔道整復師が臨床で最も多く遭遇する外傷である。施術方法を習得する上でも、各損傷を詳細に理解していなければならないので、その理解度を深めることを目標とする。

3 授業の方法

スライドなどを用いて、総括的に復習しながら質疑応答を交えて、復習しながら、時には演習問題を解き、自己の理解度を確認する授業形式で実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回見直しをして、自分の理解でいていない個所をよく知るようにしてください。
復習の徹底が、学習成果として表れることを自覚してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会 「柔道整復学・理論編」（改定第6版）南江堂

全国柔道整復師協会 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れ、自己の学習状況を常に分析し、学習計画をきちんと立て、それに沿った自己学習を心がけてください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	頭部、顔面部の軟部組織損傷 P166～P171
2	頸部の軟部組織損傷 P182～P190
3	胸背部、腰部の軟部組織損傷 P206～P209、P216～P219
4	肩関節部の軟部組織損傷 P245～ 腱板断裂, 上腕二頭筋長頭損傷
5	肩関節部の軟部組織損傷 P248～ スポーツ損傷①
6	肩関節部の軟部組織損傷 P253～ スポーツ損傷②
7	上腕部の軟部組織損傷 P262～
8	肘関節部の軟部組織損傷① P283～
9	肘関節部の軟部組織損傷② P283～
10	前腕部の軟部組織損傷 P299～
11	手関節部の軟部組織損傷① P321～
12	手関節部の軟部組織損傷②
13	手部, 指部の軟部組織損傷① P344～
14	手部, 指部の軟部組織損傷② P344～
15	定期試験
16	試験解説
17	股関節の軟部組織損傷① P370～
18	股関節の軟部組織損傷② P374～
19	大腿部の軟部組織損傷 P380～
20	膝関節部の軟部組織損傷① P401～
21	膝関節部の軟部組織損傷② P406～
22	膝関節部の軟部組織損傷③ P408～
23	下腿部の軟部組織損傷① P421～
24	下腿部の軟部組織損傷② P423～
25	足関節部の軟部組織損傷 P436～
26	足・足趾部の軟部組織損傷 P453～
27	上肢軟部組織損傷復習①
28	上肢軟部組織損傷復習②
29	下肢軟部組織損傷復習①
30	下肢軟部組織損傷復習②
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復術を臨床現場で実施するための基礎知識として、柔道整復師法を詳細に理解し、併せて社会保障制度、国民医療費、特に柔道整復療養費の取扱いの内容を理解する。

2 到達目標

すでに学んだ社会保障制度、職業倫理を基本に、柔道整復療養費の支給基準を学び、実際の臨床現場で活かせるように、理解力を身につける事を目標とする。

3 授業の方法

板書を中心に、スライドを取り入れながら授業を進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度の評価には、出席状況、積極性なども加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を徹底して実施し、自己の理解度を分析し、学習方法を確立していく。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」

配布資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復師が国民医療費の一部である療養費や各種保険を取り扱える国家資格であることを理解し、その取扱いの基礎を学び、コンプライアンスを遵守できる柔道整復師となるためにも、真面目に取り組んでもらいたい授業の一つです。

国家試験合格も視野に入れた、自己学習に活かせるように、授業に集中してください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

回数	授業内容
1	社会保障について
2	社会保障制度 ― 公的年金
3	社会保障制度 ― 介護保険
4	医療保険制度
5	保険診療の概要
6	診療報酬制度
7	療養費制度の概要 ― 療養費とは
8	柔道整復療養費の歴史
9	柔道整復療養費 ― 受領委任払いと償還払い
10	柔道整復療養費の算定（１）
11	柔道整復療養費の算定（２）
12	柔道整復療養費の算定（３）
13	柔道整復療養費の算定（４）
14	まとめ復習
15	定期試験
16	試験解説
17	療養費請求のケーススタディ（１）
18	療養費請求のケーススタディ（２）
19	療養費請求のケーススタディ（３）
20	療養費請求のケーススタディ（４）
21	労働災害保険金請求のケーススタディ（１）
22	労働災害保険金請求のケーススタディ（２）
23	自動車賠償責任保険請求のケーススタディ（１）
24	自動車賠償責任保険請求のケーススタディ（２）
25	医療従事者の職業倫理
26	柔道整復師に必用な基本的倫理観と患者への対応
27	柔道整復師の社会的責任と対応（１）
28	柔道整復師の社会的責任と対応（２）
29	柔道整復師の社会的責任と対応（３）
30	まとめ復習
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 3 年

1 授業の内容

下肢骨折，下肢脱臼の各損傷の復習を行い，理解力を深める。

2 到達目標

各損傷の特徴を理解し，診察法を基本に，損傷を明確に評価できる根拠を症状から読み取れる応用力を身に着けることを目標とする。

3 授業の方法

演習問題を解きながら，全般を復習していく。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

自己の学習成果を把握し，不足している箇所を繰り返し学習して，苦手意識を作らないようにしてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

2学年時の復習が多くなります。自身で身に着けた知識・技術を発表することで、内容を深め、また的確な検査・整復固定・後療法を確実に身につけることが出来ます。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

回数	授業内容
1	骨盤骨骨折 P351～P354
2	大腿骨近位端部骨折① P356～P366
3	大腿骨近位端部骨折② P356～P366
4	股関節脱臼 P366～P369
5	大腿骨骨幹部骨折 P377～P380
6	大腿骨遠位端部骨折 P388～P391
7	下腿近位端部骨折 P392～396
8	膝関節脱臼 P397～P399
9	膝蓋骨骨折 P399～P401
10	膝蓋骨脱臼 P401
11	下腿骨幹部骨折① P411～P421
12	下腿骨幹部骨折② P411～P421
13	下腿遠位端部骨折，足関節脱臼骨折① P426～P432
14	下腿遠位端部骨折，足関節脱臼骨折② P426～P432
15	定期試験
16	試験解説
17	足根骨骨折 距骨骨折，踵骨骨折① P432～P436
18	足根骨骨折 距骨骨折，踵骨骨折② P432～P436
19	足関節脱臼 P436
20	足根骨骨折① P442～P446
21	足根骨骨折② P442～P446
22	中足骨骨折 P447～P448
23	足指骨骨折，ショパール関節，リスフラン関節脱臼
24	骨盤骨骨折復習
25	大腿骨近位端部骨折復習
26	股関節脱臼復習
27	大腿骨骨幹部骨折，遠位端部骨折復習
28	膝関節脱臼，膝蓋骨骨折・脱臼復習
29	下腿骨近位端部，骨幹部，遠位端部骨折復習
30	まとめ復習
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅹ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

柔道整復術を臨床的に実践するための指導管理及び外傷予防を，シミュレーションを交えながら，学習していく。

2 到達目標

すでに学んだ各損傷の理論を，実際に施術に活かせるように，その指導管理及び外傷予防について，更なる理解力を身につける事を目標とする。

3 授業の方法

板書を中心に，グループワークも取り入れて行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を徹底して実施し，自己の理解度を分析し，学習方法を確立していく。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れた，自己学習に活かせるように，授業に集中してください。

45分授業なので，開始時間を守り，集中して授業を受けてください。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅹ ）

回数	授業内容
1	指導管理 ― 患者とその環境の把握
2	指導管理 ― 患者の環境に対する指導管理
3	日常生活動作，環境の指導管理 ― 臥床時の体位，患肢保持
4	姿勢や肢位の指導管理
5	歩行の指導管理
6	衣服，食事動作，入浴，清潔保持・保清，トイレの指導管理
7	体調把握の指導管理
8	施術所外でできる運動の指導管理
9	住宅環境に対する指導管理 ― 部屋，寝具，家具，トイレ様式，浴室の指導管理
10	就労環境，就学環境，スポーツ活動に対する指導管理
11	就労環境の指導管理
12	就学環境，スポーツ活動の指導管理
13	自己管理に対する指導
14	まとめ復習
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	外傷予防概論
18	外傷予防 ― 第一段階
19	運動機能向上と教育活動
20	身体の基礎的状态の評価と対応 ― 健康と体調管理
21	健康と体調管理 ― 年齢，性別，既往歴・現病歴・家族歴
22	健康と体調管理 ― 体組成，バイタルサイン，栄養状態，睡眠状態
23	健康と体調管理 ― 体格・体型，体位・姿勢，四肢の形態
24	身体とそれに伴う状態 ― 基礎体力，関節可動域と柔軟性
25	付帯する環境要因の評価と対応
26	外傷予防啓発などの教育活動
27	メンタルヘルスを保つ活動
28	特異的予防 ― 発生機序の評価と対応
29	第二段階：早期発見，早期治療 第三段階
30	まとめ復習
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅺ ） 前期集中

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復学の総論から各論の復習

2 到達目標

柔道整復師として，コンプライアンスを遵守し，業務範囲の内外を適切に鑑別できる知識を，確実に修得する事を目標とする。

3 授業の方法

板書を基本とし，学習する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

出席状況も最終評価として加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習に重点を置き，自己の学習成果をきちんと把握できるようにする。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂
配布資料

8 学生へのメッセージ

専門分野の総まとめとしての復習なので，国家試験合格を視野に入れて，理解力を更に高める努力をしてください。

9 教員氏名（ 前期 永田 俊晴 ／ 後期 陣内 和幸 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅺ ）

回数	授業内容
1	人体に加わる力
2	損傷時に加わる力
3	痛みの基礎
4	骨の損傷
5	関節の損傷
6	筋の損傷
7	腱の損傷
8	末梢神経の存症
9	診察
10	治療法 ― 整復法
11	治療法 ― 固定法
12	治療法 ― 後療法 手技療法
13	治療法 ― 後療法 運動療法
14	治療法 ― 後療法 物理療法
15	定期試験
16	試験解説
17	頭部, 体幹 まとめ復習① P 1 5 2～P 2 1 9
18	頭部, 体幹 まとめ復習② P 1 5 2～P 2 1 9
19	頭部, 体幹 まとめ復習③ P 1 5 2～P 2 1 9
20	上肢 まとめ復習① P 2 2 0～P 3 5 0
21	上肢 まとめ復習② P 2 2 0～P 3 5 0
22	上肢 まとめ復習③ P 2 2 0～P 3 5 0
23	上肢 まとめ復習④ P 2 2 0～P 3 5 0
24	上肢 まとめ復習⑤ P 2 2 0～P 3 5 0
25	上肢 まとめ復習⑥ P 2 2 0～P 3 5 0
26	下肢 まとめ復習① P 3 5 1～P 4 5 7
27	下肢 まとめ復習② P 3 5 1～P 4 5 7
28	下肢 まとめ復習③ P 3 5 1～P 4 5 7
29	下肢 まとめ復習④ P 3 5 1～P 4 5 7
30	下肢 まとめ復習⑤ P 3 5 1～P 4 5 7
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅺ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

柔整理論総論を復習し、各損傷につながる基礎を身に着ける。

関係法規を復習し、柔道整復師法を理解する。社会保障制度、柔道整復師療養費を理解する。

競技者の外傷予防、施術の医用画像の復習をする。

2 到達目標

柔道整復師として各損傷の正しい評価が行えて、コンプライアンスを遵守できる施術者としての心構えを体得する。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

全国柔道整復協会監修「関係法規」（2022年版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として働くために必要な知識になりますので、理解を深めてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて管理施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	柔道整復師のプロフェッショナリズム
2	外傷の診察，施術の要点
3	医療の安全
4	社会保障と医療経済
5	柔道整復師と療養費
6	柔道整復師法 施行規則
7	柔道整復師法 （１）
8	柔道整復師法 （２）
9	柔道整復師法 （３）
10	柔道整復師法 （４）
11	医師法 保健師助産師看護師法，診療放射線技師法，薬剤師法
12	医師法，医療法まとめ
13	社会保障と医療経済
14	柔道整復師法 まとめ
15	定期試験
16	試験解説
17	競技者の外傷予防 まとめ復習
18	競技者の外傷予防 メディカルチェック・コンディショニング
19	施術の適用と医療画像の理解（１）
20	施術の適用と医療画像の理解（２）
21	施術の適用と医療画像の理解（３）
22	施術の適用と医療画像の理解（４）
23	施術の適用と医療画像の理解（５）
24	関係法規 まとめ（１）
25	関係法規 まとめ（２）
26	社会保険制度 全般
27	競技者の外傷予防 全般
28	高齢者の外傷予防 全般
29	総復習（１）
30	総復習（２）
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師として業務範囲である外傷に対する診察法、整復法を行い、実践力を身に付ける。

2 到達目標

柔道整復師が臨床現場で遭遇する骨折、脱臼、軟部組織損傷に対応できるように、柔道整復術の基礎を修得し、素早く丁寧に行うことができるようになることを目的とする。

3 授業の方法

認定実技審査課題を中心に、実際の臨床現場を想定し、患者役と施術者役に分かれてロールプレイを繰り返し行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技はすぐに身につくものではないので、配布資料を基に、授業時間外に自主的に実技練習繰り返し行い、技術を習得すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会監修「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

配布資料

8 学生へのメッセージ

認定実技審査の合格は、卒業要件になっています。担当教員の実務経験を交えて実技の指導を行いますので、全コマ出席の参加で臨み、自主練習に努めてください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション、定型的鎖骨骨折 ― 診察法、整復法（坐位整復法）①
2	定型的鎖骨骨折 ― 診察法、整復法（坐位整復法）②
3	定型的鎖骨骨折 ― 診察法、整復法（臥位整復法）
4	上腕骨外科頸外転型骨折 ― 診察法、整復法①
5	上腕骨外科頸外転型骨折 ― 診察法、整復法②
6	肩鎖関節上方脱臼 ― 診察法、整復法①
7	肩鎖関節上方脱臼 ― 診察法、整復法②
8	肩関節前方烏口下脱臼 ― 診察法、整復法（コッヘル法）①
9	肩関節前方烏口下脱臼 ― 診察法、整復法（コッヘル法）②
10	肩関節前方烏口下脱臼 ― 診察法、整復法（ヒポクラテス法）①
11	肩関節前方烏口下脱臼 ― 診察法、整復法（ヒポクラテス法）②
12	肘関節後方脱臼 ― 診察法、整復法（第1法）①
13	肘関節後方脱臼 ― 診察法、整復法（第1法）②
14	肘関節後方脱臼 ― 診察法、整復法（第2法）
15	定期試験
16	試験解説
17	コーレス骨折 ― 診察法、整復法（牽引直圧整復法）①
18	コーレス骨折 ― 診察法、整復法（牽引直圧整復法）②
19	コーレス骨折 ― 診察法、整復法（屈曲整復法）①
20	コーレス骨折 ― 診察法、整復法（屈曲整復法）②
21	定型的鎖骨骨折 診察法、整復法 復習①
22	定型的鎖骨骨折 診察法、整復法 復習②
23	上腕骨外科頸外転型骨折 診察法、整復法 復習①
24	上腕骨外科頸外転型骨折 診察法、整復法 復習②
25	肩鎖関節上方脱臼 診察法、整復法 復習
26	肩関節前方烏口下脱臼 診察法、整復法 復習①
27	肩関節前方烏口下脱臼 診察法、整復法 復習②
28	肘関節後方脱臼 診察法、整復法 復習
29	コーレス骨折 診察法、整復法 復習①
30	コーレス骨折 診察法、整復法 復習②
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

軟部組織損傷について、各損傷を理解しながら、実際の施術方法を実技で学ぶ。

2 到達目標

各損傷の発生機序と臨床症状を理解し、その診察法の手順、検査法の実際を実技実習において、基礎的手法を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを基本として実施する。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度は実習着の状態、履物、衛生材料の管理、出席状況などを含み評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材、教具

- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂
- ・配布資料

8 学生へのメッセージ

- ・2年生で学んだ各損傷の理論を思い出し、国家試験受験、認定実技審査受験も視野に入られて、診察法、整復法、固定法の基礎技術を身に付けましょう。
- ・臨床力を身に付けるために、医療面接、患者への対応なども実践できるように、ロールプレイングをとおして学びましょう。
- ・理解の足りない個所があれば、いつでも質問するように心がけてください。
- ・白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ整復科 ）

実務経験の詳細（施術所において施術者としての実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ ）

回数	授業内容
1	肩関節軟部組織損傷 — 肩腱板損傷① — 診察法、検査法
2	肩関節軟部組織損傷 — 肩腱板損傷② — 診察法、検査法
3	肩関節軟部組織損傷 — 上腕二頭筋長頭腱損傷① — 診察法、検査法
4	肩関節軟部組織損傷 — 上腕二頭筋長頭腱損傷② — 診察法、検査法
5	大腿部軟部組織損傷 — ハムストリングス肉ばなれ損傷① — 診察法、検査法
6	大腿部軟部組織損傷 — ハムストリングス肉ばなれ損傷② — 診察法、検査法
7	大腿部軟部組織損傷 — 大腿四頭筋打撲損傷① — 診察法、検査法
8	大腿部軟部組織損傷 — 大腿四頭筋打撲損傷② — 診察法、検査法
9	膝関節部軟部組織損傷 — 側副靱帯損傷① — 診察法、検査法
10	膝関節部軟部組織損傷 — 側副靱帯損傷② — 診察法、検査法
11	膝関節部軟部組織損傷 — 十字靱帯損傷① — 診察法、検査法
12	膝関節部軟部組織損傷 — 十字靱帯損傷② — 診察法、検査法
13	膝関節部軟部組織損傷 — 半月板損傷① — 診察法、検査法
14	膝関節部軟部組織損傷 — 半月板損傷② — 診察法、検査法
15	中間試験
16	試験解説
17	下腿部軟部組織損傷 — 下腿三頭筋肉ばなれ損傷① — 診察法、検査法
18	下腿部軟部組織損傷 — 下腿三頭筋肉ばなれ損傷② — 診察法、検査法
19	足関節軟部組織損傷 — 外側靱帯損傷① — 診察法、検査法
20	足関節軟部組織損傷 — 外側靱帯損傷② — 診察法、検査法
21	肩腱板損傷
22	上腕二頭筋長頭腱損傷
23	大腿部打撲損傷
24	ハムストリングス肉ばなれ損傷
25	膝関節軟部組織損傷①
26	膝関節軟部組織損傷②
27	下腿部軟部組織損傷
28	足関節軟部組織損傷
29	まとめ復習①
30	まとめ復習②
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師が臨床で遭遇する骨折、脱臼の固定法について、各理論を復習しながら、実際の施術方法を実技で学ぶ。また、認定実技審査及び国家試験受験も視野に入れた内容も加味する。

2 到達目標

各損傷の発生機序と臨床症状、診察法、整復法を理解し、それらの固定法の手順、実際を実技実習において、基礎的手法を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを基本として実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%， 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度は白衣の状態、履物、衛生材料の管理、出席状況などを含み評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材，教具

- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改定第6版）南江堂
- ・配布資料

8 学生へのメッセージ

- ・2年生で学んだ各損傷の理論を思い出し、国家試験受験，認定実技審査受験も視野に入られて、診察法，整復法，固定法の基礎技術を身に付けましょう。
- ・臨床力を身に付けるために，医療面接，患者への対応なども実践できるように，ロールプレイングをとおして学びましょう。
- ・理解の足りない個所があれば，いつでも質問するように心がけてください。
- ・白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（施術所において施術者としての実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ ）

回数	授業内容
1	定型的鎖骨骨折の固定法 — デゾー包帯固定法
2	定型的鎖骨骨折の固定法 — リング固定法
3	定型的鎖骨骨折の固定法 — セイヤー絆創膏固定法
4	肩鎖関節上方脱臼の固定法 — 第1度損傷の固定法
5	肩鎖関節上方脱臼の固定法 — 第2度損傷の固定法
6	肩鎖関節上方脱臼の固定法 — 第3度損傷の固定法
7	肩関節前方烏口下脱臼の固定法①
8	肩関節前方烏口下脱臼の固定法②
9	上腕骨骨幹部骨折の固定法 — ミッテルドルフの三角副子固定法①
10	上腕骨骨幹部骨折の固定法 — ミッテルドルフの三角副子固定法②
11	肘関節後方脱臼の固定法 — クラームル副子固定法①
12	肘関節後方脱臼の固定法 — クラームル副子固定法②
13	コーレス骨折の固定法 — クラームル副子固定法①
14	コーレス骨折の固定法 — クラームル副子固定法②
15	中間試験
16	試験解説
17	第5中手骨頸部骨折の固定法 — アルミ副子固定法①
18	第5中手骨頸部骨折の固定法 — アルミ副子固定法②
19	第2指 PIP 背側脱臼の固定法 — アルミ副子固定法①
20	第2指 PIP 背側脱臼の固定法 — アルミ副子固定法②
21	定型的鎖骨骨折の固定法 復習
22	肩鎖関節上方脱臼の固定法 復習
23	肩関節前方烏口下脱臼の固定法 復習
24	上腕骨骨幹部骨折の固定法 復習
25	肘関節後方脱臼の固定法 復習
26	コーレス骨折の固定法 復習
27	第5中手骨頸部骨折の固定法 復習
28	第2指 PIP 背側脱臼の固定法 復習
29	まとめ復習 ①
30	まとめ復習 ②
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅹ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復の施術の基礎を学び、実践しながら、臨床への対応を理解する。

2 到達目標

柔道整復施術の手順を，ロールプレイを通して体感し，理論に一致しているか確認しながら実技を修得することを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを基本とする。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度は，出席率，積極性なども評価に加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

その日に実施した内容を，その日のうちに再度シミュレーションし，復習する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

実際の臨床現場と思い，真剣に取り組んでください。

45分授業なので，更衣は迅速に行ってください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名（ 柔道整復実技X ）

回数	授業内容
1	肋骨骨折の固定法 — 厚紙副子固定法①
2	肋骨骨折の固定法 — 厚紙副子固定法②
3	下腿骨骨幹部骨折の固定法 — クラメール副子固定①
4	下腿骨骨幹部骨折の固定法 — クラメール副子固定②
5	アキレス腱断裂の固定法 — クラメール副子固定①
6	アキレス腱断裂の固定法 — クラメール副子固定②
7	膝関節側副靱帯損傷の固定法 — テーピング固定法①
8	膝関節側副靱帯損傷の固定法 — テーピング固定法①
9	足関節外側靱帯損傷の固定法 — テーピング固定法①
10	足関節外側靱帯損傷の固定法 — テーピング固定法②
11	足関節外側靱帯損傷の固定法 — 厚紙副子固定法
12	肋骨骨折の固定法 復習
13	下腿骨骨幹部骨折の固定法 復習
14	アキレス腱断裂の固定法 復習
15	定期試験
16	試験解説 復習
17	体幹損傷の診察法①
18	体幹損傷の診察法②
19	上肢帯損傷の診察法①
20	上肢帯損傷の診察法②
21	上肢帯損傷の診察法③
22	上肢帯損傷の診察法④
23	下肢帯損傷の診察法①
24	下肢帯損傷の診察法②
25	下肢帯損傷の診察法③
26	下肢帯損傷の診察法④
27	徒手検査法の要点①
28	徒手検査法の要点②
29	徒手検査法の要点③
30	まとめ復習
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅺ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

各損傷の理論を理解し、応急手当の手順を実技実習において学ぶ。

2 到達目標

各損傷の評価法を通して、実際の施術はもとより、合併症なども視野に入れた、応急手当の方法などを体得することを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを中心に実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各外傷の発生機序や臨床症状をしっかりと頭に入れた状態で、実技に臨んでもらいたいので、予習を重点に自己学習を欠かさないでほしい。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・理解の足りない個所があれば、いつでも質問するように心がけてください。
- ・白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 以下柔道整復科専任教員 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所で施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅺ ）

回数	授業内容
1	頭部，顔面部の損傷
2	頸部の損傷
3	胸・背部の損傷
4	腰部の損傷
5	鎖骨部の損傷
6	肩関節部の損傷①
7	肩関節部の損傷②
8	上腕部の損傷
9	肘関節部の損傷
10	前腕部の損傷①
11	前腕部の損傷②
12	手関節部の損傷
13	手・指部の損傷①
14	手・指部の損傷②
15	定期試験
16	試験解説
17	骨盤部の損傷
18	股関節部の損傷
19	大腿部の損傷
20	膝関節部の損傷①
21	膝関節部の損傷②
22	下腿部の損傷
23	足関節部の損傷
24	足・足趾部の損傷
25	上肢骨折の復習①
26	上肢骨折の復習②
27	上肢骨折の復習③
28	下肢骨折の復習①
29	下肢骨折の復習②
30	下肢骨折の復習③

回数	授業内容
31	上肢脱臼の復習①
32	上肢脱臼の復習②
33	上肢脱臼の復習③
34	下肢脱臼の復習①
35	下肢脱臼の復習②
36	上肢軟部組織損傷の復習①
37	上肢軟部組織損傷の復習②
38	上肢軟部組織損傷の復習③
39	上肢軟部組織損傷の復習④
40	下肢軟部組織損傷の復習①
41	下肢軟部組織損傷の復習②
42	下肢軟部組織損傷の復習③
43	下肢軟部組織損傷の復習④
44	体幹の損傷①
45	体幹の損傷②
46	まとめ復習①
47	まとめ復習②
48	まとめ復習③
49	定期試験
50	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復の施術の基礎を学び、実践しながら、臨床への対応を理解する。

2 到達目標

柔道整復施術の手順を，ロールプレイを通して体感し，理論に一致しているか確認しながら実技を修得することを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを基本とする。

4 成績評価方法・基準

実技試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度は，出席率，積極性なども評価に加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

その日に実施した内容を，その日のうちに再度シミュレーションし，復習する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

実際の臨床現場と思い，真剣に取り組んでください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技X ）

回数	授業内容
1	医療面接の実際① ― 問診 ロールプレイ
2	医療面接の実際② ― 問診、視診 ロールプレイ
3	医療面接の実際③ ― 問診、視診 ロールプレイ
4	医療面接の実際④ ― 問診、視診、触診 ロールプレイ
5	医療面接の実際⑤ ― 問診、視診、触診 ロールプレイ
6	医療面接の実際⑥ ― 問診、視診、触診、検査法 ロールプレイ
7	医療面接の実際⑦ ― 問診、視診、触診、検査法 ロールプレイ
8	医療面接の実際⑧ ― ロールプレイ 施術録の記載
9	医療面接の実際⑨ ― ロールプレイ 施術録の記載
10	医療面接の実際⑩ ― ロールプレイ 療養費の請求方法
11	医療面接の実際⑪ ― ロールプレイ 療養費の請求方法
12	医療面接の実際⑫ ― ロールプレイ
13	医療面接の実際⑬ ― ロールプレイ
14	医療面接の実際⑭ ― ロールプレイ
15	定期試験
16	解答解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

臨床実習施設において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営（予約システム、受付、会計、スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公共交通手段を利用し、決められた開始時間の20分前には施設に到着し、10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録、レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第6版」

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。無断欠席や遅刻は評価に影響します。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 以下臨床実習指導者 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（施術所の施術者として実務経験あり）

10 特記事項

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当。

1 1 授業計画 科目名 (臨床実習Ⅳ)

回数	
	8, 9 月中の期間で, 5 日～7 日間 (4 5 時間) の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

解剖学ⅠおよびⅡで学習した知識に加え、神経系などのその他身体諸器官について構造・形態・機能を正確に把握する。身体構造について総合的に理解し、知識の統合を図るよう留意して授業をおこなう。

2 到達目標

解剖学を通じて基礎医学への知識を深め、医療従事者として求められる人体への理解・尊厳についての素養を身につける。

3 授業の方法

教科書と補足説明用のスライドを使用する。スライドのレジュメを資料として配布する。

4 成績評価方法・基準

期末試験の成績を60%、授業態度を20%、小テストの成績を20%として評価する

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を重視する。各回の講義理解度確認のために重要な箇所については国家試験形式の小テストを実施する。自己採点評価を通じて知識の補完を図るとともに、国家試験に向けた自主学習法を習得する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂版第2版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

ヴェサリウスによるファブリカの出版が近代解剖学のスタートとするなら、解剖学には約500年分の知見の蓄積があります。それぞれとても興味深い知識の宝庫ではありますが、同時に膨大であり、全てを網羅するには多くの困難が伴います。苦しみながら、そして楽しみながら一緒に解剖学を学んでいきましょう（僕も学生時代は解剖学が一番苦手でした）。

9 教員氏名（ 井川 一成 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 非常勤講師 ）

10 特記事項

科目名（ 解剖学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	内分泌系 内分泌器, ホルモンの種類①
2	内分泌系 内分泌器, ホルモンの種類② 小テスト
3	内分泌系 内分泌器, ホルモンの種類③ 小テスト
4	神経系の基礎
5	神経系の基礎 小テスト
6	神経系の基礎
7	脳 小テスト
8	脳
9	脳 小テスト
10	脊髄
11	脊髄 小テスト
12	脊髄
13	脊髄 小テスト
14	試験前ポイント解説
15	定期試験
16	試験解説
17	末梢神経（脳神経）
18	末梢神経（脳神経）小テスト
19	末梢神経（脳神経）
20	末梢神経（脊髄神経）小テスト
21	末梢神経（脊髄神経）
22	末梢神経（脊髄神経）小テスト
23	末梢神経（脊髄神経）
24	末梢神経（自律神経）小テスト
25	末梢神経（自律神経）小テスト
26	感覚器 外皮
27	感覚器 視覚器 小テスト
28	感覚器 聴覚平衡器 小テスト
29	感覚器 味覚器 嗅覚器 小テスト
30	試験前ポイント解説
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名(解剖学Ⅳ)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

人体を構成する構造を、それぞれが持つ働き・特徴とともに理解していく。

2 到達目標

施術をする上で必要な「人体の構造と機能」に関しての正確な知識を得る。

3 授業の方法

授業資料を配布し、オンライン形式で実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で分からなかったことをそのままにしないよう、また習ったことを定着させるよう、時間をあけないで復習することが大切です。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂版第2版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

専門職の無知は犯罪であるという言葉があります。覚えるべきことがたくさんあり大変だとは思いますが、施術をするために必要不可欠な知識です。自分自身のため、患者さんのためにもぜひ知識を蓄えて下さい。

9 教員氏名（ 川上 恭 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名(解剖学Ⅳ)

回数	授業内容
1	体表解剖 体表区分
2	体表解剖 骨格系①
3	体表解剖 骨格系②
4	体表解剖 筋系①
5	体表解剖 筋系②
6	体表解剖 脈管系①
7	体表解剖 脈管系②
8	体表解剖 脈管系③
9	体表解剖 神経系①
10	体表解剖 神経系②
11	体表解剖 目, 耳, 鼻, 口
12	体表解剖 外皮
13	体表解剖 生体計測
14	映像解剖
15	定期試験
16	試験解説
17	脈管系①
18	脈管系②
19	脈管系③
20	内臓系①
21	内臓系②
22	内臓系③
23	内分泌系①
24	内分泌系②
25	内分泌系③
26	神経系①
27	神経系②
28	神経系③
29	感覚器系①
30	感覚器系②
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生理学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

生理学の後半として「血液」「骨の生理」「循環」「呼吸の生理」「尿の生成と排泄」「栄養と代謝」「消化と吸収」「体温と調節」について学ぶ。

2 到達目標

- ・血液および循環器系の機能を説明できる。・骨の構造・成長・代謝を説明できる。
- ・呼吸器系の機能を説明できる。・泌尿器系の機能を説明できる。
- ・栄養と代謝を説明できる。・消化器系の機能を説明できる。
- ・体温調節のメカニズムを説明できる。

3 授業の方法

液晶プロジェクターやプリント・板書を用いて授業を進める。また單元ごとに小テストおよび国家試験問題を用いて問題演習を行うことにより、知識習得の確認と定着を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、平常点（出席および小テスト）を 20%として評価する。

5 評価の際の特記事項

前期と後期に分けて 2 回、定期テストを行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

單元ごとに教科書および配布プリントを用いて、復習を中心とした学習を行ってください。授業で配布した国家試験問題および小テスト問題は必ず復習すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改定第 4 版）南江堂

8 学生へのメッセージ

生理学は自分の身体の中で起こっていることを学ぶとても身近な学問です。生理学Ⅰと同様に、生理学Ⅱでも「生きる」ということがどんなに素晴らしいメカニズムで成り立っているかを感じ、興味を持って取り組んでもらえるよう、わかりやすい授業を心がけますので、授業でできる限り学び取ってください。

9 教員氏名（ 藤山理恵 ）

所 属（ 長崎大学生命医科学域総合歯科臨床教育学分野 ）

10 特記事項

通常教員による通常授業科目

回数	授業内容		
1	8. 血液	A	血液の成分と組成
2		B	止血
3		D	免疫
4	9. 骨の生理	A	骨の構造
5		B	骨の成長
6	10. 循環	A	心臓 前半
7		A	心臓 後半
8		B	血管
9		C	リンパ系
10		D	循環調節
11	11. 呼吸の生理	A	呼吸器系の構造
12		B	換気
13		C	ガス交換と運搬
14		D	呼吸周期の調節
15	定期試験		
16	試験解説		
17	12. 尿の生成と排泄	A	腎臓の構造と機能
18		B	尿の生成
19		C	腎血流量
20		D	排尿
21		E	腎臓による体液の調節
22	13. 栄養と代謝	A	生体に必要な栄養素
23		B	エネルギー代謝
24		C	栄養素の代謝
25		D	食物の栄養
26	14. 消化と吸収	A	消化器系の構造とはたらき
27		B	食物の消化と吸収 前半
28		B	食物の消化と吸収 後半
29		C	各栄養素の消化と吸収 前半
30		C	各栄養素の消化と吸収 後半
31	15. 体温と調節	A	体温
32		B	熱産生
33		C	熱放散
34		D	体温調節
35		E	気候順化
36		F	発熱とうつ熱
37	定期試験		
38	試験解説		

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖生理学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

1年生で学習した解剖学，生理学を復習しつつ，2年生で学習する解剖学，生理学の内容も合わせて，人体の仕組みについて統合的な理解をめざす。

2 到達目標

解剖学と生理学で学習した内容を自分の中で統合して説明できる。

3 授業の方法

プリントを配布、パワーポイントを使用しての講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%，授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

小テストの評価も授業態度に加味される。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

他に受けている解剖学と生理学の授業も，この授業の予習と復習と思って関連付けながら学習すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂第2版）医歯薬出版

全国柔道整復学校協会監修 「生理学」（改訂第3版，第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

授業が進むうちにいろいろな部分のつながりが見えてくると、一気に仕組みの理解が深まります。自分自身の体の中で起きていることが見えてくると生命を大切にすることも育ちます。

9 教員氏名（ 川上 恭 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 解剖生理学 II ）

回数	授業内容
1	1年生の解剖学と生理学のおさらい
2	細胞の構造と細胞活動
3	血液
4	心臓と血管
5	血圧調節
6	呼吸運動
7	呼吸とガス交換
8	消化活動
9	吸収活動
10	栄養と代謝・体温
11	尿の生成と体液
12	内分泌 ホルモンの性質と種類
13	内分泌 ホルモンと体液調節
14	まとめ復習
15	定期試験
16	答案返却と解説
17	生殖
18	骨代謝と体液調節
19	神経細胞
20	神経系 脊髄
21	神経系 脳幹・小脳
22	神経系 自律神経系
23	神経系 大脳基底核 大脳皮質
24	神経系 高次脳機能
25	ここまでの復習
26	骨と筋 筋収縮
27	骨と筋 強縮とエネルギー
28	感覚 受容器と適刺激
29	感覚 感覚伝導路
30	解剖生理学のまとめ
31	定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

身体の運動について、その全体像を概観する。

2 到達目標

運動学的基礎知識の習得と身体運動のメカニズムについて考察できるようになる。

3 授業の方法

プリントを配布、パワーポイントを使用しての講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「運動学」（改訂第3版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

私たちが何気なく行っている身体運動は複雑なメカニズムより構成されています。このことを理解することは、治療成績や臨床成績を向上するために必須となります。よりよい治療家となり将来の患者様の役に立つことが出来るよう、運動学の基礎を学びましょう。

9 教員氏名（ 川上 恭 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 運動学 ）

回数	授業内容
1	運動の表し方・身体運動と力学
2	運動器の構造と機能
3	神経の構造と機能
4	反射と随意運動
5	立位姿勢のランドマーク
6	立位姿勢のメカニズム・筋活動
7	歩行（歩行周期）
8	歩行（運動学的解析）
9	歩行（運動力学的解析）
10	歩行（筋活動）
11	歩行（エネルギー代謝）
12	歩行（走行・異常歩行）
13	まとめ復習1
14	まとめ復習2
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	運動学習（記憶）
18	運動学習（動機づけ・結果の知識）
19	四肢と体幹の運動（肩甲帯）
20	四肢と体幹の運動（肘関節）
21	四肢と体幹の運動（手関節・手部）
22	四肢と体幹の運動（股関節）
23	四肢と体幹の運動（膝関節）
24	四肢と体幹の運動（股関節）
25	四肢と体幹の運動（足関節）
26	四肢と体幹の運動（頸椎・胸椎）
27	四肢と体幹の運動（腰椎）
28	まとめ（四肢・体幹の運動学）
29	まとめ（立位・運動学習・歩行）
30	試験対策
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 高齢者の生理学的特徴・変化 ）

学科名 スポーツ柔整科学年 2年

1 授業の内容

通常の生理学は青年期・壮年期の平均的な人間の状態を基本としている。ところが、柔道整復師が対象とする相手は高齢者も少なくないため、その方々の特徴について概観する。

2 到達目標

高学年になって高齢者と競技者の特性を本格的に学習する前の基本的なポイントとなる概念について把握する。

3 授業の方法

教科書を中心に、必要であれば資料を配布し、オンライン形式で行う。

4 成績評価方法・基準

期末試験の成績で判定する。

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

基本的な解剖学、生理学および解剖生理学の授業の内容も合わせて予習復習する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「生理学」（改訂第4版）

8 学生へのメッセージ

三世帯家族が減少し、日常的に高齢者の生活に接する機会も減少している一方で医療従事者にとって高齢者の対応は今後ますます重要になってくる。青年期とは違った高齢者の生理的状态や能力の特性を理解するよう心がけ心がけてもらいたい。

9 教員氏名（ 藤村 幸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

通常教員による通常授業科目

科目名(高齢者の生理学的特徴・変化)

回数	授業内容
1	細胞・組織の加齢現象 — 細胞の加齢現象
2	細胞, 組織の加齢現象
3	生体膜と細胞内小器官の変化
4	体内水分量の変化
5	加齢による臓器機能の変化 (1)
6	加齢による臓器機能の変化 (2)
7	加齢による臓器機能の変化 (3)
8	高齢者に多い疾患・障害 (1)
9	高齢者に多い疾患・障害 (2)
10	高齢者に多い疾患・障害 (3)
11	運動と加齢 — 歩行機能
12	運動と加齢 — 平衡機能
13	運動と加齢 — 反応時間
14	まとめ復習
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 競技者の生理学的特徴・変化 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

通常の生理学は青年期・壮年期の平均的な人間の状態を基本としている。ところが、成長期から成人期にかけての継続した運動状況によって、個人の生理的状态や能力は個別に変化がみられる。柔道整復師として理解しておくべきそれらの特性を概観する。

2 到達目標

高学年になって高齢者と競技者の特性を本格的に学習する前の基本的なポイントとなる概念について把握する。

3 授業の方法

教科書を中心に必要があれば事前に資料を配布し、オンライン形式によって行う。

4 成績評価方法・基準

期末試験の成績で判定する。

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

基本的な解剖学，生理学および解剖生理学の授業の内容も合わせて予習復習する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「生理学」（改訂第4版）

8 学生へのメッセージ

運動に伴う平均から外れた体格・体型や生理的能力を意識するよう心がけ，逆に平均的な状態の理解にも結びつけるよう心がけよう。

9 教員氏名（ 藤村 幸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

通常教員による通常授業科目

科目名(競技者の生理学的特徴・変化)

回数	授業内容
1	競技者の体格・体力
2	成長に伴う体や運動能力の発達 ― 小児期から青年期の発達曲線
3	小児期から青年期の発育の特徴
4	小児期から青年期の呼吸循環系と運動
5	発育期の運動不足・過運動（オーバートレーニング）の影響
6	運動の発達と習熟
7	競技者の生理学的特徴・変化 ― トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化
8	トレーニングによる神経機能の変化
9	トレーニングによる姿勢調節能力の変化
10	眼球運動と姿勢制御
11	競技者の特性（1）
12	競技者の特性（2）
13	競技者の特性（3）
14	まとめ復習
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 一般臨床医学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

診察の意義と実際、生命徴候の測定、臨床検査である、生理機能検査や検体検査について学ぶ。また主要な内科的疾患の定義や病態(原因、症状)、検査法、治療、予後を解説し、一般臨床医学の理解を深める。

2 到達目標

柔道整復師として知っておくべき、ヒトを対象とした基本的な診察や検査法、主要な疾患について理解し、国家試験に対処できることを目標とする。

3 授業の方法

教科書に沿ってスライドを用いて解説し、適宜追加資料を配布し理解を促す。
授業の最後に、演習問題(5問程度)を行い、次の授業で解説を行います。

4 成績評価方法・基準

中間試験 40%、定期試験 40%、授業態度 20%（小テスト、質問など）

5 評価の際の特記事項

授業態度は、出席頻度や受講態度を総合的に評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って事前に教科書を予習・復習することで、理解が深まる。
疑問に思ったところ、理解できないところは積極的に質問すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「一般臨床医学（改訂第3版）」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

医療者として、専門分野のみならず、目の前の患者さんが抱えている様々な疾患について理解することは、患者さんへの全人的なアプローチに繋がります。
是非興味を持って取り組んでください。

9 教員氏名（ 世羅至子 ）

所 属（ 長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科 ）

10 特記事項

1 1 科目名（一般臨床医学Ⅰ）

回数	授業内容
1	診察概論、診察各論（医療面接）
2	診察各論（視診）
3	診察各論（打診・聴診・触診）
4	診察各論（生命徴候）
5	診察各論（感覚検査・反射検査）
6	診察各論（代表的な臨床症状）
7	検査法（生命徴候の測定・生理機能検査・検体検査・各検査の基準値）
8	疾患各論（呼吸器疾患＝肺炎・肺結核その他）
9	疾患各論（呼吸器疾患＝COPD・肺癌その他）
10	疾患各論（循環器疾患＝心不全・虚血性心疾患・弁膜症）
11	疾患各論（循環器疾患＝高血圧・動脈疾患・静脈疾患・不整脈）
12	疾患各論（消化器疾患＝消化管疾患）
13	疾患各論（消化器疾患＝肝疾患）
14	疾患各論（消化器疾患＝胆・膵疾患）
15	中間試験
16	中間試験解説
17	疾患各論（代謝・栄養疾患＝糖尿病）
18	疾患各論（代謝・栄養疾患＝脂質異常症・肥満症）
19	疾患各論（代謝・栄養疾患＝メタボリックシンドローム・高尿酸血症）
20	疾患各論（内分泌疾患＝下垂体性・甲状腺疾患）
21	疾患各論（内分泌疾患＝副甲状腺疾患・副腎疾患）
22	疾患各論（血液疾患＝赤血球疾患）
23	疾患各論（血液疾患＝白血球系疾患、リンパ系疾患・出血性素因）
24	疾患各論（腎・尿路疾患＝腎不全・慢性腎臓病・透析）
25	疾患各論（腎疾患＝糸球体疾患・尿路感染症・泌尿器科的疾患その他）
26	疾患各論（神経疾患＝総論・脳血管障害）
27	疾患各論（神経疾患＝認知症・パーキンソン病、末梢神経疾患・筋疾患その他）
28	疾患各論（感染症＝総論・呼吸器感染症）
29	疾患各論（感染症＝尿路・腸管・中枢神経・皮膚・整形外科感染症その他）
30	疾患各論（リウマチ・膠原病・アレルギー・環境要因による疾患）
31	定期試験
32	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 病理学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

傷病の成り立ちについて細胞・組織の変化から学習する。
機能障害の機序や機能回復に期待される再生能力について学ぶ病理学は、柔道整復術の基礎となる重要な学問領域である。

2 到達目標

炎症，アレルギー，腫瘍，遺伝性疾患などの発生機序，種類と特徴を説明できる能力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書，授業プリント，PC プロジェクタを利用した講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

中間試験と後期試験成績で評価する。

5 評価の際の特記事項

中間評価を 40%，後期評価を 60%の割合で通年での総合評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って事前に教科書の予習をしておくこと。これにより，授業内容の理解が深まる。また復習で知識の定着がなされているかを確認するため，小テストを実施する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「病理学概論」 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

正常な状態がわかっていなければ病的な状態は理解できない。生理学・解剖学の復習も並行して行うことが必要である。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (病理学)

回数	授業内容
1	病理学とは 解剖の種類 組織標本染色
2	疾病の一般 先天性疾患と後天性疾患 自覚症状と他覚的所見
3	細胞傷害(1)萎縮 変性 壊死 萎縮の種類 変性の種類
4	細胞傷害(2)壊死の種類 壊疽 アポトーシス 代謝障害 痛風
5	細胞傷害(3)黄疸 糖尿病の機序 種類, 症状, 合併症
6	細胞障害(4)老化 認知症 死と脳死
7	循環障害(1)充血 うっ血 虚血 出血 出血性素因
8	循環障害(2)DIC 血栓症 塞栓症 塞栓の種類
9	循環障害(3)梗塞 梗塞の種類 側副循環 浮腫 浮腫の成因
10	循環障害(4)脱水症 高血圧症 高血圧症の分類
11	進行性病変(1)肥大 過形成 再生 化生
12	進行性病変(2)創傷治癒 骨折の治癒 細胞内異物の処理 移植
13	炎症(1)炎症の徴候 炎症反応の経時的变化
14	炎症(2)炎症の種類 化膿性炎の種類
15	中間試験
16	試験解説 まとめ復習
17	免疫異常(1)免疫のしくみ サイトカイン
18	免疫異常(2)免疫不全 自己免疫疾患 アレルギーの種類
19	腫瘍(1)腫瘍細胞の特徴 遺伝子損傷と腫瘍
20	腫瘍(2)腫瘍の分類 良性腫瘍と悪性腫瘍 上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍
21	腫瘍(3)腫瘍の生体への影響 発がんの原因
22	腫瘍(4)前癌性病変 腫瘍の進行度 転移
23	先天性異常(1)遺伝性疾患と染色体異常 遺伝性疾患の種類
24	先天性異常(2)染色体異常の種類 奇形 催奇形性因子
25	病因(1)内因と外因 性差 内分泌異常
26	病因(2)栄養障害 ビタミン欠乏症
27	病因(3)物理的外因 火傷 放射線障害 減圧症
28	病因(4)化学的外因 公害 内分泌かく乱物質 医原病
29	病因(5)生物学的外因 病原微生物の種類 病原微生物が原因となる感染症
30	病因(6)感染症が成立する条件 感染経路 日和見感染 薬剤耐性菌
31	後期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 外科学概論 ）（後期）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2 年

1 授業の内容

外科学を通して、炎症、感染、侵襲に対する生体反応について学習し、
代表的な外科疾患の病態と診断・治療法について理解する。

2 到達目標

救命救急にも直結する外科学の基礎に関して、各々の領域におけるキーワード
について理解し簡単に説明できる。

3 授業の方法

スライド・プレゼンテーションを提示して外科学の各領域の講義を行う。
スライド資料はプリントして各講義の際に配布する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習はテキストの該当領域を通読しておく、講義に出てくる用語の理解がしやすい。
復習は、授業された領域の国家試験過去問題を解いてみると記憶に残りやすい。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「外科学概論」（改訂第4版） 南江堂

8 学生へのメッセージ

講義中に解説される重要事項に注目してください。国家試験の過去の問題も提示して
解説します。定期試験問題は、国家試験問題を想定した類似問題を作成します。
（4択50問予定）

9 教員氏名（ 野中 隆 他腫瘍外科専門医 ）

所 属（ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 腫瘍外科学 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 外科学概論 ）

回数	授業内容
1	外科学とは、損傷・創傷
2	熱傷・炎症と外科感染症
3	腫瘍
4	ショック、輸血・輸液
5	消毒と滅菌、手術
6	麻酔、移植と免疫
7	出血と止血、心肺蘇生法
8	脳神経外科疾患
9	甲状腺・頸部疾患、乳腺疾患
10	胸壁・呼吸器疾患
11	心臓・脈管疾患
12	腹部外科疾患（１）
13	腹部外科疾患（２）
14	腹部外科疾患（３）
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 整形外科学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1. 授業の内容

総論では、整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科治療法、骨関節損傷総論などについての学習。また各論では、疾患別・身体部位別に学習していく。

2. 到達目標

- 1) 総論では、運動器についての基礎知識、代表的な整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科治療法などについての理解を深める。
- 2) 各論では、整形外科疾患の概念、定義、疫学、病因、病態、症状、検査所見、治療法、予後などを理解していく。

3. 授業の方法

プリントを配布、パワーポイントを使用しての講義を行う。

4. 成績評価方法・基準

中間試験 50% 定期試験 50%, 授業態度

5. 評価の際の特記事項

授業態度には欠席回数，受講集中度，小テストの結果などを評価に含みます。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

分量が非常に多い科目ですので、一気に覚えるのはとても難しいと思います。
授業時に話したポイントに関してはこまめに復習してください。

7. 使用教材

全国柔道整復学校協会監修 「整形外科学」（改訂第3版） 南江堂.
配布プリント

8. 学生へのメッセージ

覚えるべき分量が多いこの科目ですが、各整形外科疾患の知識を深め、国家試験だけではなく、資格取得後に、臨床の場においても応用できる知識を身につけていきましょう。

9. 教員名 （ 川上 恭 ）

所属 （ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10. 特記事項

通常教員による授業科目

科目名(整形外科学)

回数	授業内容
1	オリエンテーション、整形外科とは
2	整形外科学の診察法・診断法
3	整形外科学の検査法・治療法
4	疾患別各論 感染性疾患
5	疾患別各論 骨及び軟部腫瘍
6	疾患別各論 非感染性軟部・骨関節疾患
7	疾患別各論 全身性の骨・軟部疾患、
8	疾患別各論復習 中間試験 解説・解答
9	疾患別各論 骨端症
10	疾患別各論 四肢循環障害、下肢の神経麻痺、
11	疾患別各論 上肢の神経麻痺、神経障害
12	全身性の神経、筋疾患
13	身体部位別各論、腰部・膝
14	全範囲のまとめ（２）
15	定期試験
16	答案返却及びその解説授業

シラバス（授業計画書）

科目名（ リハビリテーション医学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

リハビリテーションの概要と、各疾患における考え方について概説する。

2 到達目標

リハビリテーションの理念と各疾患に対する考え方を理解することが出来る。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義のほか、講義毎に小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「リハビリテーション医学」（改訂第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復を学ぶ上で馴染みが薄いと思われるリハビリテーションの概念ですが、患者様のよりよい日常生活や高いQOLの獲得に向けて、一緒にその概念や考え方を学びましょう。

9 教員氏名（ 三根 立己 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ リハビリテーション医学 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション，リハビリテーションの理念
2	リハビリテーションの対象と障害者の実態
3	障害の階層とアプローチ
4	リハビリテーション評価学
5	リハビリテーション障害学と治療学
6	リハビリテーション医学の関連職種
7	リハビリテーション治療技術
8	運動器のリハビリテーション（1）
9	運動器のリハビリテーション（2）
10	運動器のリハビリテーション（3）
11	運動器のリハビリテーション（4）
12	運動器のリハビリテーション（5）
13	運動器のリハビリテーション（6）
14	リハビリテーションと福祉 ／ 障害者スポーツ
15	定期試験
16	解答・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ リハビリテーション医学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

高齢者のリハビリテーションの概要と、各疾患における考え方、機能回復方法について、機能訓練指導をとおして概説する。

2 到達目標

高齢者のリハビリテーションの理念と各疾患に対する考え方を理解することができ、柔道整復師が機能訓練指導を通じて、具体的に運動機能の改善、回復方法を実践できるように、その理論を習得することを目標とする。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義を中心に実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「リハビリテーション医学」（改訂第4版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復師と機能訓練指導」 南江堂

8 学生へのメッセージ

45分の授業なので、授業開始時間を厳守してください。

柔道整復を学ぶ上で高齢者のリハビリテーションの概念を理解しなければなりません。そして高齢の患者様のよりよい日常生活や高いQOLの獲得に向けての実践指導方法を獲得するために、貪欲に学習に邁進してください。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ リハビリテーション医学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	高齢者のリハビリテーション 平均寿命と健康寿命
2	フレイル 加齢と老化について・老年症候群
3	フレイル ロコモティブシンドローム・サルコペニア
4	高齢者を取りまく医療制度
5	認知症の理解 P25～
6	高齢者虐待 要介護の予防
7	リハビリテーション前置主義，地域リハビリテーション
8	パーキンソン病のリハビリテーション
9	脳卒中のリハビリテーション
10	高齢者介護と ICF P73～
11	リハビリテーションと ICF 機能訓練と ICF
12	ロコモティブシンドローム P95～
13	高齢者自立支援の理解① P103～
14	高齢者の運動機能維持①
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名(柔道Ⅱ)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1. 授業の内容

1年時に修得した受身、投技を復習すると共に、相手を尊重し、認定実技を踏まえて礼法・受身・投技・礼法を習得する。

2. 到達目標

全講義が終了した時点で、各々の身体能力に合った投技を工夫できるようにする。

3. 授業の方法

講堂に畳を敷き、柔道の礼儀、基本受け身、基本型を稽古する。

4. 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する

5. 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけるなど
などを評価に入れる（認定実技要綱より）

6. 授業時間外学習

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。
特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

7. 使用教材，教具

柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）など、資料を適宜配布する。

8. 学生へのメッセージ

相手を尊重し、怪我をしない、させないように集中して授業に取り組んで下さい。

9. 教員名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（整骨院にて施術者として勤務経験あり）

10. 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(柔道Ⅱ)

回数	授業内容
1	受身復習、組んだ姿勢から受け身、礼法（立礼・坐礼）
2	受身復習、組んだ姿勢から受け身復習、投技（大腰）
3	受身復習、組んだ姿勢から受け身復習、投技復習、投技（体落）
4	受身復習、組んだ姿勢から受け身復習、投技復習、投技（大内刈）
5	受身復習、組んだ姿勢から受け身復習、投技復習、投技（小内刈）
6	受身復習、投技復習、投技（背負投）
7	受身復習、投技復習、連続技（大内刈～背負投）
8	受身復習、投技復習、連続技（大内刈～大腰）
9	受身復習、投技復習、連続技（大内刈～体落）
10	受身復習、投技復習、形（手技—浮落）
11	受身復習、投技復習、形（手技—背負投）
12	受身復習、投技復習、形（手技—肩車）
13	受身復習、投技復習、形（手技の復習）
14	総復習
15	実技試験
16	試験結果発表，復習

シラバス（授業計画書）

科目名(柔道 III)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2 年

1. 授業の内容

相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いての攻防を習得。

2. 到達目標

自己の責任を果たし仲間と協力して、基本動作、対人的技能を身につける。

3. 授業の方法

講堂に畳を敷き、柔道の礼儀、基本受け身、基本型を稽古する。

4. 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

5. 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる（認定実技要綱より）

6. 授業時間外学習

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。
特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

7. 使用教材，教具

柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）など、資料を適宜配布する。

8. 学生へのメッセージ

柔道の特性に関心を持ち、積極的に取り組むとともに、相手を尊重し相手の能力を考慮し、怪我をしない、させないように集中して授業に取り組んで下さい。

9. 教員名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10. 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(柔道Ⅲ)

回数	授業内容
1	受身復習、打込み、投技復習、形（腰技—浮腰）
2	受身復習、打込み、投技復習、形（腰技—払腰）
3	受身復習、打込み、投技練習、形（腰技—釣込腰）
4	受身復習、打込み、投技練習、形（腰技復習）
5	受身復習、打込み、投技練習、形（足技—支釣込足）
6	受身復習、打込み、投技練習、形（足技—送足払）
7	受身復習、打込み、投技練習、形（足技—内股）
8	受身復習、打込み、投技練習、形（足技復習）
9	受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形復習（手技）
10	受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形復習（手技・腰技）
11	受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形復習（腰技・足技）
12	受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形復習（足技）
13	受身復習、打込み、投技練習、約束乱取練習、形復習（全ての形）
14	総復習
15	実技試験
16	試験結果発表 総復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会保障制度 ） 集中

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

日本の社会保障制度の概要を学び、併せて柔道整復師の保険診療の基礎を学ぶ。

2 到達目標

- ・ 社会保障制度の内容を理解する。
- ・ 社会保障の現状を理解する。
- ・ 日本の保健医療の内容を理解する。
- ・ 柔道整復師が取り扱う各種保険の種類を理解する。
- ・ 柔道整復師の受領委任制度を理解する。

3 授業の方法

教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度や質問の返答など、授業に対して積極的な姿勢も成績評価に加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習をしてくる。復習は、その日のうちに。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」

医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

医療関係者は社会保障制度についての知識がなければなりません。

特に、柔道整復師は健康保険等を利用して受診する患者に対して、適切な対応が求められます。したがって、それらの基礎的な知識を学ぶ大切な授業なので、不明な点は必ず質問して、少しずつ理解できるように努力しましょう。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 施術所で施術管理者としての実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 社会保障制度 ）

回数	授業内容
1	社会保障制度の概要① ... 社会保障とは
2	社会保障制度の概要② ... 国民生活と社会保障，社会保障制度の変遷
3	社会保障を取り巻く環境① ... 高齢者のすすむ人口構造
4	社会保障を取り巻く環境② ... 増加する社会保障給付と負担
5	社会保障を取り巻く環境② ... 社会保障制度改革の全体像
6	社会福祉 ... 高齢者保険福祉，介護保険制度，子育て支援施策
7	保健医療① ... 医療需要の変化，増大する国民医療費，
8	保健医療② ... 医療従事者の確保と質の向上，医療保険制度の概要
9	保険診療 ... 保険診療，自賠責，労災，自由診療 ①
10	保険診療 ... 保険診療，自賠責，労災，自由診療 ②
11	保険診療 ... 保険診療，自賠責，労災，自由診療 ③
12	受領委任制度とは
13	柔道整復師法
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

上肢の骨損傷の各論を学習し、理解する。

2 到達目標

柔道整復師が通常業務で対応する骨損傷の病態を理解し、施術法に繋がるようにそれらの知識を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

板書を基本に、教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。また、区切りとしてコンテンツ毎に小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂
参考資料プリント

8 学生へのメッセージ

軟部組織損傷を理解する為には解剖学や生理学の基礎医学の知識も必要になります。
将来的にスポーツ分野あるいは介護分野へ就職を希望する人は、特に重要な項目となるので、しっかりとその知識を身につけるように努力してください。

9 教員氏名（ 松瀬 慎一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での施術の経験有り ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	鎖骨部の損傷 P220 / 鎖骨骨折 P221～P224①
2	鎖骨骨折 P221～P224②
3	肩甲骨の骨折 P228～P233①
4	肩甲骨の骨折 P228～P233②
5	上腕骨近位部の骨折 P233～P238①
6	上腕骨近位部の骨折 P233～P238②
7	上腕骨近位部の骨折 P233～P238③
8	上腕骨骨幹部骨折 P256～P261①
9	上腕骨骨幹部骨折 P256～P261②
10	上腕骨遠位部の骨折 P266～P273①
11	上腕骨遠位部の骨折 P266～P273②
12	上腕骨遠位部の骨折 P266～P273③
13	前腕近位部の骨折 P274～P278①
14	前腕近位部の骨折 P274～P278②
15	定期試験
16	試験解説
17	前腕骨骨幹部骨折 P288・P298①
18	前腕骨骨幹部骨折 P288・P298②
19	前腕骨遠位端部骨折 P306・P312①
20	前腕骨遠位端部骨折 P306・P312②
21	前腕骨遠位端部骨折 P306・P312③
22	手根骨部の骨折 P313・P318①
23	手根骨部の骨折 P313・P318②
24	手根骨部の骨折 P313・P318③
25	手根骨部の骨折 P313・P318④
26	中手骨骨折 P328・P332①
27	中手骨骨折 P328・P332②
28	指骨骨折 P334・P338①
29	指骨骨折 P334・P338②
30	まとめ復習
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

頭部・顔面部の軟部組織損傷、上肢の軟部組織損傷の各論を学習する。

2 到達目標

各損傷の発生機序，分類，臨床症状を理解し，柔道整復師の業務範囲内外を明確にすることで，臨床力の基礎を修得することを目標とする。

3 授業の方法

教科書を用いた講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

4 5 分授業と短いため、特に授業進度計画に沿った教科書の予習、復習を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

解剖学、生理学等の基礎医学で得た知識と関連付けて覚えていくことが大事です。
臨床例を知ることモチベーションを上げるきっかけにしてください。

9 教員氏名（ 陣内 和幸 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	頭部、顔面部の軟部組織損傷 P166～P171①
2	頭部、顔面部の軟部組織損傷 P166～P171②
3	頭部、顔面部の軟部組織損傷 P166～P171③
4	頸部の軟部組織損傷 P182～P190①
5	頸部の軟部組織損傷 P182～P190②
6	頸部の軟部組織損傷 P182～P190③
7	頸部の軟部組織損傷 P182～P190④
8	胸背部、腰部の軟部組織損傷 P206～P209、P216～P219①
9	胸背部、腰部の軟部組織損傷 P206～P209、P216～P219②
10	胸背部、腰部の軟部組織損傷 P206～P209、P216～P219③
11	肩関節部の軟部組織損傷 P245～P256①
12	肩関節部の軟部組織損傷 P245～P256②
13	肩関節部の軟部組織損傷 P245～P256③
14	肩関節部の軟部組織損傷 P245～P256④
15	定期試験
16	試験解説
17	上腕部の軟部組織損傷 P262
18	肘関節部の軟部組織損傷 P283～P287①
19	肘関節部の軟部組織損傷 P283～P287②
20	肘関節部の軟部組織損傷 P283～P287③
21	前腕部の軟部組織損傷 P299～P304①
22	前腕部の軟部組織損傷 P299～P304②
23	前腕部の軟部組織損傷 P299～P304③
24	手関節部の軟部組織損傷 P321～P324①
25	手関節部の軟部組織損傷 P321～P324②
26	手関節部の軟部組織損傷 P321～P324③
27	手部、指部の軟部組織損傷 P344～P350①
28	手部、指部の軟部組織損傷 P344～P350②
29	手部、指部の軟部組織損傷 P344～P350③
30	まとめ復習
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

下肢の軟部組織損傷を学習する。

2 到達目標

柔道整復師が通常業務で対応する軟部組織損傷の病態を理解し，施術法に繋がるようにそれらの知識を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

板書を基本に，教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って，事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂
参考資料プリント

8 学生へのメッセージ

軟部組織損傷を理解する為には解剖学や生理学の基礎医学の知識も必要になります。
将来的にスポーツ分野あるいは介護分野へ就職を希望する人は，特に重要な項目となるので，しっかりとその知識を身につけるように努力してください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所で施術者としての実務経験有り ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	股関節の軟部組織損傷 P370～ （1）
2	股関節の軟部組織損傷 P370～ （2）
3	股関節の注意すべき疾患 P374～
4	大腿部の軟部組織損傷 P380～ （1）
5	大腿部の軟部組織損傷 P380～ （2）
6	膝関節部の軟部組織損傷 P401～ （1）
7	膝関節部の軟部組織損傷 P401～ （2）
8	膝関節部の軟部組織損傷 P401～ （3）
9	膝関節部の軟部組織損傷 P401～ （4）
10	膝関節部の軟部組織損傷 P401～ （5）
11	膝関節部の注意すべき疾患 P409
12	股関節の軟部組織損傷 復習
13	大腿部の軟部組織損傷 復習
14	膝関節部の軟部組織損傷 復習
15	定期試験
16	試験解説
17	下腿部の軟部組織損傷 P421～ （1）
18	下腿部の軟部組織損傷 P421～ （2）
19	下腿部の軟部組織損傷 P421～ （3）
20	下腿部の注意すべき疾患 P423～
21	足関節部の軟部組織損傷 P436～ （1）
22	足関節部の軟部組織損傷 P436～ （2）
23	足根部の脱臼と軟部組織損傷 P449～ （1）
24	足根部の脱臼と軟部組織損傷 P449～ （2）
25	足・足趾部の軟部組織損傷 P453～ （1）
26	足・足趾部の軟部組織損傷 P453～ （2）
27	足関節部の注意すべき疾患 P457～
28	下腿部の軟部組織損傷 復習
29	足関節部の軟部組織損傷 復習
30	足・足趾部の軟部組織損傷 復習
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2 年

1 授業の内容

臨床上発生頻度の高率な骨折，脱臼，軟部組織損傷の診察法，整復法の基本手順を理解し，実技実習をとおして学習する。

2 到達目標

各損傷の特徴，発生機序や症状を理解し，それらの診察手順，整復や検査法の基礎を，実技をとおして学習し，柔道整復術の基本を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら，診察法，整復法，固定法，検査法を行う。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

身だしなみ・挨拶・言葉遣いも評価の対象となります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

柔道整復学の理論編と関連付けて理解を深めてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂
配布資料

8 学生へのメッセージ

- ・1年次で学習した各損傷の総論，診察法，施術方法の基礎技術を身に付けましょう。
- ・臨床力を身に付けるために，医療面接，患者への対応なども実践できるように，ロールプレイングをとおして学びましょう。
- ・理解の足りない個所があれば，いつでも質問するように心がけてください。
- ・白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所に置いて施術者としての実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

回数	授業内容
1	定形的鎖骨骨折 診察法 P62～
2	定形的鎖骨骨折 整復法（坐位整復法） 固定法（デゾー包帯固定法）
3	定型的鎖骨骨折 整復法（臥位整復法） 固定法（リング固定法，8字帯）
4	定型的鎖骨骨折 固定法（セイヤー絆創膏固定法，厚紙副子固定法）
5	肩鎖関節上方脱臼 診察法，整復法 P209～
6	肩鎖関節上方脱臼 固定法（ロバート・ジョーンズ絆創膏固定）
7	肩関節前方烏口下脱臼 診察法，整復法（コッヘル法） P221～
8	肩関節前方烏口下脱臼 整復法（ヒポクラテス法）
9	肩関節前方烏口下脱臼 固定法
10	肘関節後方脱臼 診察法，整復法（第1法） P232～
11	肘関節後方脱臼 整復法（第2法） 固定法（金属クラーメル副子固定）
12	肘内障 診察法，整復法 P241～
13	第2指 PIP 背側脱臼 診察法，整復法，固定法 P245～
14	まとめ復習
15	定期試験
16	試験解説
17	上腕骨外科頸外転型骨折 診察法，整復法 P75～
18	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法，固定法
19	上腕骨骨幹部骨折（三角筋付着部より遠位骨折）固定法 P103
20	肩関節の軟部組織損傷 腱板損傷 診察法，検査法 P257～
21	肩関節の軟部組織損傷 腱板損傷 検査法
22	肩関節の軟部組織損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷 診察法，検査法 P264～
23	コーレス骨折 診察法，整復法（牽引直圧整復法） P152～
24	コーレス骨折 診察法，整復法（屈曲整復法）
25	コーレス骨折 固定法
26	第5中手骨頸部骨折 固定法 P205
27	膝関節の軟部組織損傷 固定法（厚紙副子固定）
28	足関節の軟部組織損傷 固定法（厚紙副子固定）
29	まとめ復習（1）
30	まとめ復習（2）
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

スポーツ競技者の外傷予防

学科名 スポーツ柔整科学年 2年

1 授業の内容

競技者の外傷予防について、運動生理学を理解しながら、スポーツ外傷や障害の予防法を理論とその実際を学ぶ。

2 到達目標

各種競技の特徴を学びながら、運動生理学の理論を理解し、好発する各損傷を知り、それらの予防法の基礎について学んでいきます。

特に、専門基礎分野と専門分野の知識が不可欠となるので、解剖学、生理学、柔道整復理論を学習し、理解を深めるように、日々の学習に取り組んでください。

3 授業の方法

理論学習は教室で、実技実習は実習室において実施します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 40%、中間試験 40%、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

欠席回数、容姿（白衣、髪色、爪など）、衛生材料の管理を授業態度として評価します。

6 授業時間外学習

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「競技者の外傷予防」 医歯薬出版
資料配布

8 学生へのメッセージ

- ・専門基礎医学である生理学の理解と、運動学で引用される解剖学の理解度が求められるので、各科目の予習と復習をするようにしてください。
- ・45分の授業時間なので、実技実習を行う時は着替えを速やかにしてください。
- ・白衣は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所で施術管理者としての実務経験有り ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名 (柔道整復実技Ⅵ)

回数	授業内容
1	運動生理学の概要 ― 運動が生体に与える影響 運動のメリット
2	運動が生体に与える影響 運動のデメリット
3	運動のエネルギー代謝 ― 無酸素性エネルギー供給機構
4	無酸素性エネルギー供給機構 (2)
5	有酸素性エネルギー供給機構, 運動強度の違いによるエネルギー供給機構の動員割合
6	運動と骨・筋肉 運動による骨の増強, 運動と筋力
7	運動と呼吸・循環 ― 呼吸
8	運動と呼吸・循環 ― 酸素摂取量
9	運動と呼吸・循環 ― 循環
10	運動とホルモン
11	競技者の運動生理学的特徴
12	まとめ復習①
13	まとめ復習②
14	まとめ復習③
15	中間試験
16	試験解説
17	競技者の外傷予防 (概論)
18	外傷の発生原因 ― 内因要因
19	外傷の発生原因 ― 外因要因
20	外傷の発生原因 ― 外傷への直接的誘発要因
21	外傷の予防対策
22	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック (評価と測定) ①
23	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック (評価と測定) ②
24	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際①
25	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際②
26	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際③
27	種目別の外傷予防とその実際①
28	種目別の外傷予防とその実際②
29	種目別の外傷予防とその実際③
30	種目別の外傷予防とその実際④
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

柔道整復師の基本施術である後療法の実際を実技で体験し、その基礎を学ぶ。

2 到達目標

1年生で学習した後療法「手技療法」「運動療法」の理論を中心に、その実際を、実技を通して体験し、その基礎を身に着けることを目標とする。

また、超音波画像装置の操作法と読影を、実際に装置を用いながら理解する。

3 授業の方法

実習室での実技と、教室で行う座学を、基本的に教科書を用いて授業を進める。

施術所を使用して超音波画像装置の操作法を学ぶ。

4 成績評価方法・基準

定期試験（実技または筆記）80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には、出欠状況、受講姿勢などを加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

1年生で学習した後療法の内容を、教科書や自己のノートを読み返し復習してください。

実技では学校以外での予習復習は難しいので、授業時間以外に練習するようにしてください。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学 理論編」第6版 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「競技者の外傷予防」 医歯薬出版

全国柔道整復学校協会監修 「施術の適応と医用画像の理解」 南江堂

8 学生へのメッセージ

実技では、実習着の着用、爪の手入れ、装飾品の禁止などに留意してください。

女子は髪を後ろで束ねてください。

前期は45分授業と短いので、授業開始時間を守るように準備してください。

9 教員氏名（ 前期／中野 仁， 後期（集中講義）／専任教員 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（施術所にて施術管理者としての実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

回数	授業内容	
1	後療法 「手技療法」 の実際 理論	教 室
2	後療法 「手技療法」 の実際（１） 実技	実習室
3	後療法 「手技療法」 の実際（２） 実技	実習室
4	後療法 「手技療法」 の実際（３） 実技	実習室
5	後療法 「手技療法」 の実際（４） 実技	実習室
6	後療法 「手技療法」 の実際（５） 実技	実習室
7	後療法 「運動療法」 の実際	教 室
8	後療法 「運動療法」 の実際	実習室
9	後療法 「運動療法」 の実際	実習室
10	後療法 「運動療法」 の実際	実習室
11	後療法 「運動療法」 の実際	実習室
12	後療法 「運動療法」 の実際	実習室
13	後療法 「運動療法」 の実際	実習室
14	後療法 「運動療法」 の実際	実習室
15	定期試験	教 室
16	試験解説	教 室
17	医用画像の理解 X 線画像の読影法 （１）	教 室
18	医用画像の理解 X 線画像の読影法 （２）	教 室
19	医用画像の理解 X 線画像の読影法 （３）	教 室
20	医用画像の理解 MRI 画像の読影法	教 室
21	医用画像の読影法 小テスト	教 室
22	医用画像の理解 超音波画像装置 理論（１）	教 室
23	医用画像の理解 超音波画像装置 理論（２）	教 室
24	医用画像の理解 超音波画像装置 操作法（１）	施術所
25	医用画像の理解 超音波画像装置 操作法（２）	施術所
26	医用画像の理解 超音波画像装置 操作法（３）	施術所
27	医用画像の理解 超音波画像装置 操作法（４）	施術所
28	医用画像の理解 超音波画像装置 操作法（５）	施術所
29	医用画像の理解 超音波画像装置 操作法（６）	施術所
30	医用画像の理解 超音波画像装置 操作法（７）	施術所
31	定期試験	教 室
32	試験解説	教 室

シラバス（授業計画書）

科目名（ 栄養学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

栄養素の生理的作用，エネルギー源としての役割と消化・吸収されるしくみについて，基本事項を学習する。

2 到達目標

栄養素の作用，消化器系の構造，栄養素が消化吸収・代謝されるしくみを説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書，授業プリント，PC プロジェクタを利用した講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

中間試験と後期試験成績で評価する。

5 評価の際の特記事項

中間評価を 40%，後期評価を 60%の割合で通年での総合評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って事前に教科書の予習をしておくこと。これにより，授業内容の理解が深まる。また復習で知識の定着がなされているかを確認するため，小テストを実施する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改定第4版） 南江堂

全国柔道整復学校協会編「解剖学」（改定第2版） 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

栄養素の摂取と利用をテーマに，解剖学と生理学の内容を結びつけながら学習を進める。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 栄養学 ）

回数	授業内容
1	栄養素の性質(1)糖質 単糖類 二糖類 多糖類 グリコーゲン
2	栄養素の性質(2)タンパク質 必須アミノ酸と非必須アミノ酸
3	栄養素の性質(3)脂質 トリグリセリド リン脂質 コレステロール リポタンパク質
4	栄養素の性質(4)ミネラル カルシウム ナトリウム カリウム
5	栄養素の性質(5)ビタミン 生理作用と欠乏症
6	栄養素の代謝(1)細胞活動のエネルギー ATP 高エネルギーリン酸結合
7	栄養素の代謝(2)ATP の生成 解糖系 クエン酸回路 電子伝達系
8	栄養素の代謝(3)中間代謝 吸収期と空腹期
9	栄養素の代謝(4)エネルギー代謝 呼吸商 アトウォーター係数
10	栄養素の代謝(5)基礎代謝 安静代謝 睡眠代謝
11	消化器系の機能(1)消化器系の構成 機械的消化 咀嚼 嚥下 蠕動 分節
12	消化器系の機能(2)化学的消化 唾液 胃液 膵液 胆汁
13	消化器系の機能(3)消化管運動と消化液分泌の調節
14	消化・吸収のしくみ 小腸吸収上皮細胞 担体 乳化 ミセル カイロミクロン
15	中間試験
16	試験解説 まとめ復習
17	消化器系の構造・機能(1)消化管の基本構造 粘膜 粘膜固有層 筋層 神経叢
18	消化器系の構造・機能(2)口腔 口蓋 口峽 歯 咀嚼
19	消化器系の構造・機能(3)唾液腺 舌 舌乳頭
20	消化器系の構造・機能(4)咽頭 食道 嚥下(口腔相 咽頭相 食道相)
21	消化器系の構造・機能(5)腹膜 腹腔内器官と腹膜後器官 間膜
22	消化器系の構造・機能(6)胃 噴門と幽門 胃体 胃底 小弯 大弯 角切痕
23	消化器系の構造・機能(7)胃 胃腺 主細胞 壁細胞 副細胞
24	消化器系の構造・機能(8)小腸 十二指腸 大十二指腸乳頭 トライツ靱帯
25	消化器系の構造・機能(9)小腸 空腸 回腸 輪状ヒダ 腸絨毛 リーベルキューン腺
26	消化器系の構造・機能(10)大腸 盲腸 虫垂 バウヒン弁 上行結腸
27	消化器系の構造・機能(11)大腸 横行結腸 下行結腸 S 状結腸 直腸 肛門管
28	消化器系の構造・機能(12)肝臓 肝臓の葉 肝小葉 洞様毛細血管 毛細胆管
29	消化器系の構造・機能(13)肝臓 グリソン鞘 胆嚢 胆汁流路
30	消化器系の構造・機能(14)膵臓 膵管 ランゲルハンス島
31	後期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生物学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

医療の基礎となる解剖学や生理学や病理学を理解する上で必要な生物の細胞において、細胞の構造、細胞の組織、DNA、遺伝、免疫についての基礎知識を学んでいく。

2 到達目標

生物学で用いる基本的な用語を理解し、解剖学・生物学・臨床医学・病理学などの学問を理解するための橋渡しを目指す。

3 授業の方法

毎回プリントを配布し、それに解説を加えながら空欄を埋めることにより理解を図る。

4 成績評価方法・基準

前期では試験を90%、平常点を10%として成績を出し、後期でも試験90%、平常点10%で評価します。最終的に前期と後期の成績を平均して60%以上であれば合格とします。

5 評価の際の特記事項

毎時間小テストを行い、それを平常点とします。欠席が多いと当然小テストの点数が無くなり、平常点も減少します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間を大切にすること。その日に学んだことはその時間内で理解するように心がけてください。それに加えて、忘れないように復習を行ってください。

7 使用教材、教具

テキストは毎回プリントを配ります。それと「サイエンスビュー生物総合資料」実教出版を使います。

8 学生へのメッセージ

最初は新しい言葉が沢山出てきてパニックになるかもしれませんが、重要な言葉は何度でも出てきます。それらを少しずつ覚えていくことで理解が急速に容易になるはずです。前期は大変でも後期には必ず楽になります。諦めないことが大切です。夢に向かって頑張りましょう。

9 教員氏名（ 松尾泰博 ）

所属（ ころろ医療福祉専門学校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名(生物学)

回数	授業内容
1	自然発生説の否定、生命の誕生
2	細胞の成分（タンパク質、糖質、脂質）
3	複合脂質、～細胞の構造（細胞壁）
4	細胞の構造（核～リソソーム）、細胞骨格
5	細胞外基質、細胞膜、細胞接着、半透膜
6	浸透圧、選択的透過性、受動輸送、
7	能動輸送、膜動輸送、呼吸
8	呼吸、解糖系～電子伝達系、嫌気呼吸
9	脂肪・タンパク質からのエネルギー、呼吸商、細胞分裂前期
10	細胞分裂終期まで、減数分裂、配偶子の多様性、命の始まり
11	不分離と異数性、ヒトの生殖細胞の形成、
12	胚葉の分化と器官発生、優性の法則、分離の法則
13	メンデルの実験の検証、複対立遺伝子
14	Rh式血液型、伴性遺伝、常染色体遺伝
15	中間試験
16	試験問題解説、国試過去問、胚葉の分化
17	DNAの構造、DNAと染色体、国試過去問
18	半保存的複製、DNAの複製、テロメア、PCR
19	DNAの修復、RNAの種類と働き、暗号解読
20	タンパク質の合成、サイレント突然変異
21	突然変異、形質発現の調節（前半）
22	形質発現の調節（後半）、遺伝子変異とがん（ウイルスによる）、
23	遺伝子変異（生活習慣、遺伝性）、がんにかかわる遺伝子
24	インフルエンザウイルス、遺伝子組み換え、制限酵素、プラスミド
25	t PA、ゲノム編集、遺伝子治療、クローン動物（前半）
26	クローン動物（後半）、再生医療、ヒトゲノム計画
27	生体防御システム、非特異的防御、炎症反応（前半）
28	炎症反応（後半）、特異的防御、抗体、B細胞、T細胞
29	MHCタンパク質、液性免疫、細胞性免疫
30	アレルギー、ワクチン、自己免疫疾患
31	定期試験
32	試験問題解説、国試過去問

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医療コミュニケーション ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

真の患者中心の医療とは、患者が自分の治療について十分な説明を受け理解し、納得し、自発的に選択した上に成り立っている。そして、それには、医療者と患者の密なコミュニケーションが重要である。本授業では医療人として患者とより良いコミュニケーションをとるために、コミュニケーションの重要性やスキルを学習するとともに、相手との会話を成立させるためには、まず、正しい日本語を、正しい表現力で伝えられなければならない。そのためには、日常会話の語彙力はもとより、医療専門用語とその意味をどれだけ理解しているか、そしてそれら専門用語をどれだけ相手にわかりやすく表現し伝えられるか、という能力を高めることが重要である。

2 到達目標

医療コミュニケーションの要は「相手（患者）の心に自分の心を沿わせてみて、相手の心情を察し心の機微に触れること」である。いかに、相手の話を聞いて、適切に対応できるか。その基本となる会話力を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

スライド、配布資料をもとに語彙力を身に着けるために読み書き、コミュニケーション能力を養うためにグループワーク形式などを行う。

4 成績評価方法・基準

レポート（50%）、ロールプレイング（50%）にて評価する

5 評価の際の特記事項

演習への参加態度、欠席、遅刻は減点する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

講義で配布される資料や演習課題をよく読み、わからない点は積極的に質問するなどして解消しておいてください。

7 使用教材、教具

配布資料

教具としてレポート用紙（A4）を各自準備する

8 学生へのメッセージ

コミュニケーション能力は、様々な場面で必要とされるものです。特に、医療関係に従事する者としては、不可欠な要素です。そのことをよく自覚し、本物の医療者となるべく邁進してください。

9 教員氏名（ 福田光芳 / 中野 仁 ）

所 属（ こころ未来高等学校 / こころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

科目名（ 医療コミュニケーション ）

回数	授業内容
1	ガイダンス 「医療コミュニケーションとは」
2	読解力をたかめるために一 語彙力（読み書き、ことわざ、四字熟語など）①
3	読解力をたかめるために一 語彙力（読み書き、ことわざ、四字熟語など）②
4	読解力をたかめるために一 語彙力（読み書き、ことわざ、四字熟語など）③
5	語彙力充実プリント実施 知識の充実：一般常識を鍛える①
6	語彙力充実プリント実施 知識の充実：一般常識を鍛える②
7	語彙力充実プリント実施 知識の充実：一般常識を鍛える③
8	語彙力充実プリント実施 医療職に求められる資質とコミュニケーション力 傾聴
9	語彙力充実プリント実施 日本の医療一般の動向 医療用語、カタカナ重要語
10	語彙力充実プリント実施 中高年者との会話を楽しむために 高齢者を取り巻く環境
11	語彙力充実プリント実施 医療用語の理解①
12	語彙力充実プリント実施 医療用語の理解②
13	語彙力充実プリント実施 医療用語の理解③
14	語彙力充実プリント実施 医療用語の理解④
15	中間試験 レポート作成
16	レポートの評価
17	語彙力充実プリント実施 知識の充実：一般常識を鍛える
18	語彙力充実プリント実施 知識の充実：一般常識を鍛える
19	語彙力充実プリント実施 労働について 職業別人口
20	語彙力充実プリント実施 新聞記事：要約・意見感想
21	語彙力充実プリント実施 童話・昔話を読む
22	語彙力充実プリント実施 新聞記事：要約・意見感想
23	語彙力充実プリント実施 グループワーク（テーマは未定）考える力・話す力を鍛える
24	語彙力充実プリント実施 グループワーク（1）
25	語彙力充実プリント実施 グループワーク（2）
26	語彙力充実プリント実施 グループワーク（3）
27	語彙力充実プリント実施 グループワーク（4）
28	語彙力充実プリント実施 グループワーク（5）
29	語彙力充実プリント実施 グループワーク（6）
30	生きること、職業生活、人生について
31	定期試験 レポートの作成
32	1年間の反省・総括

シラバス（授業計画書）

科目名(情報リテラシー)

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1. 授業の内容

コンピュータ演習の後半では、プレゼンテーションなどで使用される「PowerPoint」を使用し、課題を設定した資料作成（社会人として習得しておくべき、パワーポイント）の制作スキルを学びます。また、後半では、Word での表やグラフ作成の基礎と Excel の連携について学習します。

2. 到達目標

アプリケーションの機能概要（操作）の理解と画面操作のみではなく、ショートカットキーの同時使用で、作業の効率化が出来る。また、プレゼンや報告書の制作スキルを習得します。

3. 授業の方法

PC 室において、講師用 PC をプロジェクターに写し、捜査方法を同時に行いながら、修得します。又、各章毎に練習問題を実施し、回答を行いながら修得します。

4. 成績評価方法・基準

定期試験 → 70%

授業態度 → 30%

5. 評価の際の特記事項

授業態度は、授業や課題への取り組みや出欠を含めて総合的に判断します。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って講義を行います。また、PC 室の空き時間は自由に PC が使用可能である為、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7. 使用教材・教具

「よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019」
(FOM 出版)

8. 学生へのメッセージ

ビジネス業界で必ず必要となる「文書作成や表計算」を Microsoft 社の「Office2019」を使用して基礎から学習します。今回は Word, Excel, PowerPoint を基礎から学習しますので、日常生活でも活用してください。

9. 教員氏名(家富 浩人)

所 属(こころ医療福祉専門学校)

10. 特記事項

実務経験のある常勤教員による授業科目

科目名(情報リテラシー)

回数	授業内容
1	PC とアプリケーション (Office2019) の全体説明
2	PowerPoint 基礎知識
3	PowerPoint プレゼンテーション作成
4	PowerPoint スライドショーの実行
5	Word 基礎知識
6	Word 文書作成
7	Word グラフィック機能
8	Word ワードでの表作成
9	Excel 基礎知識
10	Excel データ入力
11	Excel エクセルでの表作成
12	Excel グラフの作成
13	Excel データ分析
14	Word・Excel アプリケーション間でのデータ共有
15	定期試験
16	答案返却及び解説 授業の進捗度・理解度等により順序が変更する場合もある。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医用英語 ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

グローバル化が加速する中、日本国内に居住する外国人の数は増加しています。同時に海外、特に開発途上の国々では、日本人の医療スタッフが多数活躍しています。外国人患者との意思疎通のために、英語運用能力を基礎からマスターします。

2 到達目標

前期は、日常生活を送るうえで、欠くことのできない表現を場面別に習得し、運用練習を行います。コミュニケーションの難しさを克服し、意思疎通がスムーズに行えた時の喜びを体得しましょう。「外国語」という障壁（バリア）をできるだけ取り除きましょう。

後期は、テキストを使用し、実際の業務で頻繁に使用される表現を場面別に習得し、運用練習を行います。患者の信頼を獲得し、安心して治療を受けられるようコミュニケーションスキルを高めましょう。

3 授業の方法

基本的な流れは、「表現習得」⇒「ペア練習」⇒「全体発表」の形をとります。「表現習得」後、4～5のグループで「ペア練習」を行い、その成果を「全体発表」で披露します。なお授業予定は、進捗状況によって変更される場合があります

4 成績評価方法・基準

定期試験及び課題（60％） 授業での活動・参加状況（40％）

5 評価の際の特記事項

定期試験はもちろん重要ですが、出席状況・授業中の取り組み（ペア練習と全体発表）を上記の割合で加味し、総合的に評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業以外では、普段から声に出して学んだ内容を復習してください。前期 11 回～14 回に関しては、事前にこちらから各グループに課題を出して、その課題の発表を行ってもらいます。

7 使用教材、教具

前期は、オリジナルの教材を配布します。各授業の前に配布されますので、バインダーに入れて、保管してください。

後期は、「柔道整復師のための外国人対応ハンドブック」を使用します。

8 学生へのメッセージ

英語の得意・不得意は問いません。学生の皆さんの前向きな取り組みを期待しています。「英語検定」等の資格試験へチャレンジしてみることをお勧めします。

9 教員氏名（ 白石 克文 ）

所 属 （ 長崎南山高等学校 ）

10 特記事項

1 1 科目名（ 医 用 英 語 ）

回数	授業内容
1	教員自己紹介・授業の概要・学生の皆さんの自己紹介
2	学生の皆さんの自己紹介（続き）
3	日本語にない英語の発音について・あいさつを交わす
4	気分・調子・体調について話す
5	お礼をいう（基本・応用）
6	お詫びをする
7	アドバイスする
8	誘う・応じる・断る
9	電話をかける・受ける・電話でのさまざまな応対
10	とっさの時に役立つ表現
11	日本を紹介する（食について）
12	日本を紹介する（文化について）
13	長崎を紹介する（食について）
14	長崎を紹介する（文化について）
15	定期試験 ※中間試験
16	答案返却および解説・前期の総復習
17	コミュニケーションのコツ・柔道整復術・柔道整復師
18	受付・診察
19	問診その1
20	問診その2・視診
21	触診その1
22	触診その2
23	超音波機器による診察
24	診断
25	施術その1
26	施術その2
27	会計
28	実践練習その1（受付から診断まで）
29	実践練習その2（施術から会計まで）
30	実践演習その3（受付から会計まで）
31	定期試験
32	答案返却および解説・後期の総復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

人体の骨格および筋肉について学習する。

2 到達目標

人体の骨格の構造と筋肉の起始停止やその作用について理解する。

3 授業の方法

PC プロジェクターを使用したパワーポイントによる講義。骨および筋の模写。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂第2版）医師薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

運動器は施術所などで治療する際の基礎的な知識です。暗記が多くなりますが、一つ一つ覚えましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 解剖学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	人体の構成（１） 細胞
2	人体の構成（２） 組織
3	骨格系 総論 身体構造の全体像
4	脊柱の構造
5	胸郭の構造
6	上肢骨（１） 上肢帯（鎖骨、肩甲骨）
7	上肢骨（２） 自由上肢①（上腕骨、橈骨、尺骨）
8	上肢骨（３） 自由上肢②（手根骨）
9	下肢骨（１） 下肢帯（寛骨）
10	下肢骨（２） 自由下肢①（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨）
11	下肢骨（３） 自由下肢②（足根骨）
12	頭蓋骨（１） 脳頭蓋
13	頭蓋骨（２） 顔面頭蓋
14	前期まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	筋系 総論
18	体幹の筋（１） 胸部、腹部
19	体幹の筋（２） 背部
20	上肢の筋（１） 上肢帯、上腕屈筋・伸筋
21	上肢の筋（２） 前腕屈筋
22	上肢の筋（３） 前腕伸筋
23	下肢の筋（１） 下肢帯
24	下肢の筋（２） 大腿伸筋・屈筋・内転筋
25	下肢の筋（３） 下腿伸筋・屈筋・腓骨筋群
26	頭頸部の筋（１） 表情筋
27	頭頸部の筋（２） 咀嚼筋
28	後期まとめ（１） 上半身の筋
29	後期まとめ（２） 下半身の筋
30	後期まとめ（３） 頭頸部の筋
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

解剖学のうち、生命活動に直接結びつく脈管系、内臓系の構造について学習する。

2 到達目標

消化器・呼吸器、泌尿生殖器などの構成と特徴、心血管系の経路を説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書、授業プリント、PC プロジェクタを利用した講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

中間試験と後期試験成績で評価する。

5 評価の際の特記事項

中間評価を 40%、後期評価を 60%の割合で通年での総合評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って事前に教科書の予習をしておくこと。これにより、授業内容の理解が深まる。また復習で知識の定着がなされているかを確認するため、小テストを実施する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「解剖学」（改定第2版） 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

解剖学は他の科目の基礎となる最も重要な科目なので予習・復習をしっかりと行うこと。また、局所を断片的に勉強するだけでなく、他の部位とのつながりのなかで個々の特徴を理解することが必要である。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	人体解剖学概説（１） 意義と分類 解剖学の意義 解剖学の分類 解剖学用語
2	人体解剖学概説（２） 細胞および組織 1 細胞 2 組織
3	人体解剖学概説（３） 発生 1 人体の発生 2 各組織，器官の発生
4	人体解剖学概説（４） 人体の区分 1 区分 2 細区分 3 人体の区分線
5	脈管系（１） 総論 1 体循環と肺循環 2 血管の形態と構造
6	脈管系（２） 心臓 1 心臓の位置と形態 2 心臓の構造 3 心臓の弁 4 心臓壁の構造
7	脈管系（３） 5 刺激伝導系 6 心臓の脈管 7 心臓の神経 8 心膜
8	脈管系（４） 肺循環 【動脈系】 大動脈 頭頸部の動脈 ウィリスの動脈輪
9	脈管系（５） 上肢の動脈 胸大動脈 腹大動脈
10	脈管系（６） 骨盤部・下肢の動脈 【静脈系】 上大静脈 腕頭静脈 頭頸部・上肢の静脈
11	脈管系（７） 奇静脈 下大静脈 門脈 下肢の静脈
12	脈管系（８） 胎児循環 【リンパ系】 リンパ本幹 リンパ節 脾臓 胸腺
13	脈管系まとめ復習（１）
14	脈管系まとめ復習（２）
15	中間試験
16	試験解説 ／ 消化器（１） 構成 基本構造 口腔 唾液腺 歯 舌
17	消化器（２） 咽頭 食道 嚥下 腹膜 胃 十二指腸 空腸 回腸
18	消化器（３） 盲腸 結腸 直腸 肝臓
19	消化器（４） 胆嚢 膵臓
20	消化器まとめ
21	呼吸器（１） 鼻腔 咽頭と喉頭 気管と気管支
22	呼吸器（２） 肺 胸膜 縦隔
23	呼吸器まとめ
24	泌尿器（１） 腎臓 腎小体 ネフロン 尿路 尿管
25	泌尿器（２） 膀胱 尿道 生殖器（１） 男性生殖器 精巣 精巣上体 精管
26	泌尿器まとめ
27	生殖器（２） 男性生殖器 付属腺 陰茎 陰嚢
28	生殖器（３） 女性生殖器 卵巣 卵管 子宮 膣 外生殖器
29	生殖器（４） 受精と発生
30	生殖器まとめ
31	後期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生理学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

生理学の前半として「生理学の基礎」「筋」「神経」「運動」「感覚」「内分泌」「生殖」について学ぶ。また味覚の体験実習を1回行なう。

2 到達目標

- ・生理学の位置づけを理解する。
- ・筋肉の機能を説明できる。
- ・神経の基本的機能を説明できる。
- ・運動系の機能を説明できる。
- ・感覚器系の機能を説明できる。
- ・内分泌系の機能を説明できる。
- ・生殖器系の機能を説明できる。

3 授業の方法

教科書やパワーポイント・プリント・ビデオを用いて授業を進める。また、授業で学んだことを確認できるよう授業途中または最後に小テストを行う。また单元ごとに国家試験問題を用いて問題演習を行うことにより、知識習得の確認と定着を行う。さらに項目「感覚の生理」では特殊感覚である味覚の実習を行い、味覚障害を体験することにより理解を深め、生理学への興味を引き出す。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、平常点（出席および小テスト）を 20%として評価する。

5 評価の際の特記事項

前期と後期に分けて2回、定期テストを行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

单元ごとに教科書および配布プリントを用いて、復習を中心とした学習を行ってください。授業で配布した国家試験問題は必ず復習すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「生理学」（改訂第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

初めて生理学の教科書を読んでもひとりで理解することは難しいかもしれません。しかし生理学は自分の身体の中で起こっていることを学ぶとても身近な学問です。「生きる」ということがどんなに素晴らしいメカニズムで成り立っているかを感じ、興味を持って取り組んでもらえるよう、わかりやすい授業を心がけますので、授業のできる限り学び取ってください。

9 教員氏名（ 藤山 理恵 ）

所 属（ 長崎大学生命医科学域総合歯科臨床教育学分野 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (生理学 I)

回数	授業内容
1	1. 生理学とは A 細胞の構造と機能 前半
2	A 細胞の構造と機能 後半
3	B 組織・器官と生体の機能系
4	C 生体の恒常性と統合機能
5	D 体液の区分と組成
6	2. 筋の生理 A 骨格筋 前半
7	A 骨格筋 後半
8	B 心 筋
9	C 平滑筋
10	3. 神経の生理 A 神経信号の伝達
11	B 神経系の構成
12	C 脳の高次機能
13	D 内蔵機能の調節
14	まとめ
15	前期試験
16	答案返却・解説
17	4. 運動の生理 A 運動の調節 B 運動神経と運動単位
18	C 脊髄による反射とその調節
19	D 脳幹による運動調節 E 高次運動機能
20	5. 感覚の生理 A 感覚の一般的な特性
21	B 特殊感覚
22	C 体性感覚
23	D 内臓感覚 E 痛覚
24	6. 内分泌 A 内分泌腺とホルモン
25	B それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき 前半
26	B それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき 後半
27	C ホルモンによる内部環境の恒常性の維持
28	7. 生 殖 A 性分化 B 男性生殖器
29	C 女性生殖器 D 妊娠と分娩
30	まとめ
31	後期試験
32	答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖生理学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

人体の基本的な仕組みについて、解剖学と生理学を統合して総合的に理解する。

2 到達目標

人体の仕組みの基本的な用語について、簡単に説明できるようになる。

3 授業の方法

簡単なプリントを配付し、スライドと板書で行う。

（2022年度はオンライン授業）

4 成績評価方法・基準

期末試験

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

別に授業がある解剖学と生理学の学習と合わせて行う。

7 使用教材，教具

「のほほん解剖生理学」（永岡書店）

8 学生へのメッセージ

別に授業がある解剖学と生理学で理解が難しい内容があれば，特に取り上げて解説する。

9 教員氏名（ 藤村 幸一 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

科目名（ 解剖生理学 I ）

回数	授業内容
1	解剖生理学の勉強にあたって
2	細胞
3	皮膚と膜
4	血液循環
5	神経
6	感覚器
7	内分泌
8	骨格と筋
9	呼吸器
10	消化器
11	泌尿器
12	生殖器
13	免疫
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名(柔道Ⅰ) 後期

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1. 授業の内容

相対する二人が、互いに相手の動きに応じて技能を競い合う格闘形式の運動であるので、相手を尊重し安全に練習や行動ができる能力を育てる。

2. 到達目標

基本動作（移動、崩し）と受身の習得を中心に学習させ、個人の体力、能力に応じた安全で効果的な練習方法によって柔道技術の習得を目標とする

3. 授業の方法

講堂に畳を敷き、柔道の礼儀、基本受け身、基本型を稽古する。

4. 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

5. 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる。

6. 授業時間外学習

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。
特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

7. 使用教材，教具

柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）など。資料を適宜配布する。

8. 学生へのメッセージ

初心を忘れず、怪我に注意して毎回の授業に取り組んで下さい。

9. 教員名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（施術所にて柔道整復師としての実務経験あり）

10. 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(柔道Ⅰ)

回数	授業内容
1	ガイダンス、作法・姿勢・道衣の着方、身体慣らし
2	身体慣らし、後方受け身、側方受け身
3	後方受け身、側方受け身、前方受け身
4	前方回転受け身、組手
5	前方回転受け身、崩し方
6	受け身練習、組んだ姿勢から崩し
7	受け身練習、組んだ姿勢から崩し練習
8	受け身練習、組んだ姿勢から崩し練習
9	受け身練習、組んだ姿勢から受け身の練習
10	受け身練習、組んだ姿勢から受け身の練習
11	受け身練習、足技（膝車）
12	受け身練習、足技（支え釣り込み足）
13	受け身練習、足技の攻防
14	一年次のまとめ
15	実技試験
16	試験評価 まとめ

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復術の根本ともいえる外傷「骨折」の施術方法を知るために、基礎医学である解剖学及び生理学の学習と並行しながら、骨の機能と構造を理解し、骨折についての基礎を学習する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症狀などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%, 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度の評価は、授業に対しての積極的な姿勢、出席状況等を加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画（シラバス）を参考に、その日に学習する範囲を教科書で確認し、事前に読んでおいてください。授業終了後は、教科書を読み返して、必ず復習してください。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせずに、その都度質問をするなりして、吸収してください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 施術所で施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 柔道整復術および柔道整復師の沿革 P2～P6
2	人体に加わる力，損傷に関する身体の基礎的状态，損傷時に加わる力 P12～P15
3	骨の形態と機能① P20～
4	骨の形態と機能②
5	骨損傷の概説 P22
6	骨損傷の概説：骨損傷に関わる力，骨損傷の分類①：性状による分類
7	骨損傷の分類②：程度による分類，骨折線の方法による分類
8	骨損傷の分類③：外創との交通の有無による分類，外力の働いた部位による分類
9	骨損傷の分類④：外力の働き方による分類，部位による分類，経過による分類
10	骨折の症状：局所症状，全身症状①
11	骨折の症状：局所症状，全身症状②
12	骨折の合併症①：併発症
13	骨折の合併症②：続発症
14	骨折の合併症③：後遺症
15	中間試験
16	試験解説
17	骨折分類の復習①
18	骨折分類の復習②
19	小児骨折の特徴①
20	小児骨折の特徴②
21	高齢者骨折の特徴
22	骨折の癒合日数，骨折の治癒経過
23	骨折総論まとめ復習
24	骨折各論 ― 頭部，顔面部の骨折① P148～P152
25	頭部，顔面部の骨折② P148～P152
26	頭部，顔面部の骨折③ P148～P152
27	頸椎の骨折 P153～P158
28	胸椎の骨折 P159～P163
29	腰椎の骨折 P164～P166
30	まとめ復習
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の概要

関節損傷および軟部組織損傷各論を学ぶうえの基礎として、各組織の構造と機能、それらの損傷総論を学習し、理解する。

各論では顎関節脱臼、脊椎の脱臼、上肢の脱臼へと学習を進めていく。

2 到達目標

ある程度の解剖学の予習を一緒におこないながら軟部組織損傷の分野を理解していく。解剖学などの専門基礎分野を学習しながら、柔道整復師が業務として取り扱う運動器の損傷についての基礎を理解することを目標とする。

3 授業の方法

板書を基本に、教科書と資料をもとに授業を展開していきます。

4 成績評価方法

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後には、その日のうちに必ず復習してください。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 施術所での実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション / A 関節の構造と機能
2	B 関節損傷の概説
3	C 関節損傷の分類
4	D 損傷される組織 E 鑑別診断を要する類症
5	F 関節構成組織損傷（1）靱帯，関節包の損傷
6	F（2）関節周辺を通過あるいは起始停止する筋・腱の損傷（3）関節軟骨損傷
7	F（4）その他関節構成組織の損傷（関節唇，関節半月・円板，滑液包，神経・血管）
8	関節損傷の復習①
9	関節損傷の復習②
10	G 脱臼総論① P59～61
11	G 脱臼総論② P62～64
12	G 脱臼総論③ P65～66
13	脱臼総論の復習
14	前期のまとめ
15	定期試験
16	定試験解説 まとめ復習
17	顎関節脱臼 P163～166（1）
18	顎関節脱臼 P163～166（2） / 頸椎脱臼 P180～181
19	胸椎の脱臼 P205～206 / 腰椎の脱臼 P215
20	鎖骨の脱臼 P225～226（1）
21	鎖骨の脱臼 P225～226（2）
22	肩関節脱臼 P239～243（1）
23	肩関節脱臼 P239～243（2）
24	肘関節脱臼 P279～283（1）
25	肘関節脱臼 P279～283（2）
26	手関節の脱臼 P318～319（1）
27	手関節の脱臼 P318～319（2）
28	手根中手関節脱臼 P332
29	指節間関節脱臼 P339～P343
30	後期のまとめ
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

筋、腱および末梢神経損傷各論を学ぶうえの基礎として、筋、腱、神経の構造と機能、それらの損傷総論を学習し、理解する。
外傷の診察方法、治療法、患者の指導管理を学び、臨床現場に活用できる知識を習得する。

2 到達目標

解剖学などの専門基礎分野を学習しながら、柔道整復師が業務として取り扱う運動器の損傷についての基礎を理解することを目標とする。

3 授業の方法

板書を基本に、教科書と資料をもとに授業を展開していきます。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後には、その日のうちに必ず復習してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」 南江堂
全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」 南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

永田： 学習についてこられるように全授業参加で臨んでください。

伊藤： 学習についてこられるように全授業参加で臨んでください。

9 教員氏名（ 前期：永田 俊晴 後期：伊藤元太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科／スポーツ鍼灸科 ）

実務経験（ 施術所での実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	筋の損傷 ― A 筋の構造と機能
3	筋の損傷 ― B 筋損傷の概説 C 筋損傷の分類
4	筋の損傷 ― D 筋損傷の症状 E 筋損傷の治癒機序 F 予後
5	筋の損傷 まとめ復習
6	腱の損傷 ― A 腱の構造と機能
7	腱の損傷 ― B 腱損傷の概説 C 腱損傷の分類
8	腱の損傷 ― D 腱損傷の症状 E 腱損傷の治癒機序
9	腱損傷 まとめ復習
10	末梢神経の損傷 ― A 神経の構造と機能
11	末梢神経の損傷 ― B 神経損傷の概説 C 神経損傷の分類
12	末梢神経の損傷 ― D 末梢神経損傷の症状 E 末梢神経損傷の治癒過程
13	末梢神経の損傷 まとめ復習
14	復習 試験対策
15	定期試験
16	試験解説 まとめ復習
17	診察 ― A 診察時の注意点 B 診察手順の概説
18	診察 ― C 診察の時期による分類 D 治療計画の作成 E 施術録の扱いと記録
19	診察 まとめ復習
20	治療法 整復法 ― A 徒手整復施行時の配慮 B 骨折の整復
21	治療法 整復法 ― C 脱臼の整復法
22	治療法 ― 後療法 （2）
23	治療法 ― 後療法 （3）
24	指導管理 （1）
25	指導管理 （2）
26	外傷予防 （1）
27	外傷予防 （2）
28	まとめ復習 （1）
29	まとめ復習 （2）
30	まとめ復習 （3）
31	定期試験
32	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ） 集中

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復師に必要な下肢骨折・脱臼の知識を深め、担当教員の実務経験を基にした、患者への接し方、所見の取り方、治療の説明を行い、実践的な知識力を身に付ける。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症狀などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%， 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度の評価は、授業に対しての積極的な姿勢、出席状況等を加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画（シラバス）を参考に、その日に学習する範囲を教科書で確認し、事前に読んでおいてください。授業終了後は、教科書を読み返して、必ず復習してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせずに、その都度質問をするなりして、吸収してください。

9 教員氏名（ 中野 仁 他専任教員 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	骨盤骨の解剖（骨格）
2	骨盤骨骨折 P351-P355
3	大腿骨近位の解剖（骨格）
4	大腿骨近位部の骨折 1 P358-P365
5	大腿骨近位部の骨折 2 P358-365
6	股関節の構造（関節構造） / 股関節脱臼 1 P366-369
7	股関節脱臼 2 P366-369
8	大腿骨骨幹部の解剖（骨格） / 大腿骨骨幹部骨折 1 P377-P380
9	大腿骨遠位の解剖（骨格） / 大腿骨遠位部の骨折 1 P388-P391
10	大腿骨遠位部の骨折 2 P388-P391
11	膝関節の解剖と機能（関節構成組織）
12	膝関節脱臼 P397-P398
13	下肢骨折・脱臼復習 1 （骨盤骨骨折～膝蓋骨脱臼）
14	下肢骨折・脱臼復習 2 （骨盤骨骨折～膝蓋骨脱臼）
15	中間試験
16	試験解答解説，まとめ復習
17	下腿骨近位の解剖 / 下腿骨近位端部骨折 P392～P399
18	膝蓋骨の解剖 / 膝蓋骨骨折 P399 膝蓋骨脱臼 P401
19	下腿骨幹部の解剖 / 下腿骨骨幹部骨折 1 P413-P420
20	下腿骨骨幹部骨折 2 P413-P420
21	下腿遠位部の解剖 / 下腿遠位部骨折 1 P426-P432
22	下腿遠位部の骨折 2 P426-P432
23	下腿遠位部の骨折 3 P426-P432
24	足根骨の解剖（骨格，関節構造）
25	足根骨部の骨折 1 P432-P435
26	足根骨部の骨折 2 P432-P435
27	足根骨部の骨折 3 P432-P435 足関節部の脱臼 P436
28	中足骨の解剖 / 中足骨の骨折・脱臼 P447-P448
29	趾骨の解剖 / 趾骨の骨折・脱臼 P449
30	下肢骨折・脱臼復習 （下腿骨近端端部骨折～趾骨骨折）
31	定期試験
32	試験解答解説，まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

診察法の基礎および、体表解剖をもとに触診の要点を学び、併せてスポーツコンディショニングの基礎を学ぶ。

2 到達目標

診察法の手順を学習し、臨床への基礎を身に着け、さらに体表解剖をとおして、触診が適切に実行できるように、その基礎を習得する。

診察法、触診法をスポーツコンディショニングに応用するため、コンディショニングについての基礎を学習し、柔道整復師の業務を自覚することを目標とする。

3 授業の方法

プリントを配布し、PC プロジェクターを利用した PowerPoint による講義

4 成績評価方法・基準

基本定期試験で評価するが、課題・出席率・授業態度も加味する

5 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる（認定実技要綱より）

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

課題プリントを配布し、予習教材として活用

配布プリントを復習教材として活用

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂
配布プリント

8 学生へのメッセージ

理論の知識を深め、資格取得後においても活用できるように一緒に考え学びましょう

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 診察 理論編 P86～P89
2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察 実技編 P5～P9
3	体表解剖① 上肢
4	体表解剖② 下肢
5	体表解剖③ 体幹
6	上肢テーピングの留意点
7	下肢テーピングの留意点
8	上肢触診の要点①
9	上肢触診の要点②
10	下肢触診の要点①
11	下肢触診の要点②
12	体幹触診の要点①
13	体幹触診の要点②
14	まとめ復習
15	定期試験
16	定期試験解説 まとめ復習
17	スポーツコンディショニングの基礎：コンディショニングとは
18	コンディションに関係する要因
19	コンディションを崩す要因とは
20	コンディショニングのポイント①
21	コンディショニングのポイント②
22	プライマリーチェックの指標
23	スポーツ障害の発生要因
24	ストレッチング理論①
25	ストレッチング理論②
26	各運動領域におけるストレッチング①
27	各運動領域におけるストレッチング②
28	各運動領域におけるストレッチング③
29	各運動領域におけるストレッチング④
30	まとめ復習
31	定期試験
32	定期試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の概要

柔道整復術の基礎となる包帯法，軟性材料，硬性材料について基本技術の修得。

2 到達目標

基本包帯法、冠名包帯法などの技法を修得し，各部位への包帯固定ができる。

テーピングの基礎を修得する。軟性材料，硬性材料を知る。

3 授業方法

教科書を用いた講義及び講義内容に関連する実技の実践。

4 成績評価方法

定期試験 80％ 授業態度 20％

5 評価の際の特記事項

授業態度の評価は，身だしなみ(実習着の状態)，授業への積極性，出席状況などを加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業時間以外の反復練習が技術向上の鍵です。

様々な体型・体格の方、違う性別の方に包帯を巻くことも大事です。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」第7版 南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」第2版 南江堂

8 学生へのメッセージ

実習実技は臨床への重要な学習手段です。全出席を目指し，施術法習得の一環として，確実に基礎が身に付くように弛まぬ努力をしてください。

実習着は常に清潔にしましょう。爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 前期：陣内和幸 ／ 後期：中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 施術所で施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

回数	授業内容
1	前期ガイダンス 実習の受け方 包帯固定学
2	固定及び固定材料について
3	巻軸帯の巻き方と注意事項、巻軸帯の巻き戻し
4	基本包帯法 ①環行帯、螺旋帯、蛇行帯
5	基本包帯法 ②折転帯、亀甲帯、麦穂帯
6	各部位 手部・手指部
7	各部位 下腿部・足部
8	各部位 足関節部
9	冠名包帯法 デゾー包帯法（１）
10	冠名包帯法 デゾー包帯法（２）
11	冠名包帯法 ヴェルポー包帯法、ジュール包帯法
12	三角巾を用いた固定
13	各部位の基本包帯法（１）
14	各部位の基本包帯法（２）
15	定期試験
16	試験解説 まとめ復習
17	各部位への包帯法 復習 上肢 （１）
18	各部位への包帯法 復習 上肢 （２）
19	各部位への包帯法 復習 下肢 （１）
20	各部位への包帯法 復習 下肢 （２）
21	テーピング（１）
22	テーピング（２）
23	テーピング（３）
24	硬性材料作成① － 厚紙副子固定 上肢
25	硬性材料作成② － 厚紙副子固定 下肢
26	硬性材料作成③ － 金属副子 上肢
27	硬性材料作成③ － 金属副子 下肢
28	テーピング 足関節、膝関節
29	テーピング 手指、肘関節
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・柔道整復術の診察法の基礎を学ぶ。
- ・テーピングの基礎技術を学ぶ。
- ・スポーツコンディショニングの基礎実技を学ぶ。
- ・臨床実習についてのオリエンテーション

2 到達目標

- ・診察法の手順を、医療面接をもとにロールプレイなどを行いながら学んでいく。
- ・テーピングの種類、巻き方、応用などを実技で習得する。
- ・臨床実習を受講するための心構えと基礎知識を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら、診察法の基本を、ロールプレイを通して行う。
互いにテーピングを施行し、その効果を評価し合う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）

4 5 分授業になるので、各自予習、復習を心がけてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・実技授業になりますので、白衣は必ず着用してください。
- ・臨床力を身に付けるために、まじめに実技実習に取り組んでください。
- ・白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所で施術者として実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 柔道整復師業務
2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察 実技編 P5～P9
3	損傷の診察（視診・問診）
4	体表解剖：上肢触診
5	体表解剖：下肢触診
6	体表解剖：体幹触診
7	上肢テーピング①
8	上肢テーピング②
9	下肢テーピング①
10	下肢テーピング②
11	下肢テーピング③
12	ロールプレイングを用いた触診①
13	ロールプレイングを用いた触診②
14	前期まとめ
15	定期試験
16	試験解説 まとめ復習
17	スポーツコンディショニングの基礎：コンディショニングとは
18	コンディションに関係する要因
19	コンディションを崩す要因とは
20	コンディショニングのポイント①
21	コンディショニングのポイント②
22	プライマリーチェックの指標
23	スポーツ障害の発生要因
24	ストレッチング理論の実際①
25	ストレッチング理論の実際②
26	臨床実習について （１）
27	臨床実習について （２）
28	臨床実習について （３）
29	後期まとめ復習 （１）
30	後期まとめ復習 （２）
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ） 集中

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復術の各種固定法および徒手検査法，後療法の実際を学ぶ。
臨床実習前適応試験の実施

2 到達目標

- ・柔道整復術を基本技法の固定材料の種類，特性を学び，それらの実践技術を修得する。
- ・徒手検査法の知識と技術を修得する。

3 授業の方法

実習室において実技実習を行い，施術法を体得する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 70%，授業態度 30%

5 評価の際の特記事項

欠席回数，容姿（白衣，髪色，爪など），衛生材料の管理を授業態度として評価します。

6 授業時間外学習

授業進行計画を参考に，事前に内容を確認，予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」南江堂
資料配布

8 学生へのメッセージ

- ・柔道整復術の基本である固定法の基礎を身に付ける努力をしてください。
- ・徒手検査法の技術を臨床現場で発揮できるように基礎を身に付けてください。
- ・実習実技は臨床への重要な学習手段です。全出席を目指し，施術法習得の一環として，確実に基礎が身に付くように弛まぬ努力をしてください。
- ・実習着は常に清潔にしましょう。爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 他専任教員 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（施術所での実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

回数	授業内容
1	軟性材料① ― 基本包帯法（１） 部位別包帯法 上肢
2	軟性材料② ― 基本包帯法（２） 部位別包帯法 下肢
3	軟性材料③ ― 基本包帯法（３） 部位別包帯法 体幹
4	固定法① 上肢
5	固定法② 上肢
6	固定法③ 上肢
7	固定法④ 上肢
8	固定法⑤ 上肢
9	固定法⑥ 下肢
10	固定法⑦ 下肢
11	固定法⑧ 下肢
12	固定法⑨ 下肢
13	固定法⑩ 下肢
14	まとめ復習
15	中間試験
16	試験解説
17	徒手検査法①
18	徒手検査法②
19	徒手検査法③
20	徒手検査法④
21	治療法：骨折の整復法，脱臼の整復法，軟部組織損傷の初期処置
22	治療法：固定の目的・固定の種類・固定の肢位，固定の期間・固定の材料
23	治療法：後療法 ― 手技療法①
24	治療法：後療法 ― 手技療法②
25	治療法：後療法 ― 手技療法③
26	治療法：後療法 ― 手技療法④
27	治療法：後療法 ― 運動療法①
28	治療法：後療法 ― 運動療法②
29	治療法：後療法 ― 運動療法③
30	まとめ
31	定期試験
32	実技試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所、臨床実習施設等）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営（受付、事務、スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、決められた開始時間の20分前には施設に到着し、10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。
- ・「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 以下専任教員）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細 （施術所で施術管理者として実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当する。

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

回数	
	2月～3月の間で，5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。